

2008年度

(平成20年度)

海外技術研修員等 研修報告書



大山と菜の花

鳥 取 県

は じ め に

海外技術研修員受入事業は、将来を担う海外の青年を「海外技術研修員」等として招き、必要な技術を習得していただくものです。母国の発展に貢献する人材を養成するとともに、県民との友好親善を図ることを目的としています。

鳥取県では1987年度、友好関係にある中国河北省から「農業研修生」「緑化研修生」として5名を受け入れて以来、2007年度までにブラジルから30名、中国から121名、モンゴルから17名、パラグアイから1名の合計169名を受け入れてまいりました。

このほかにも「韓国江原道行政実務研修生」「外務省長期青年招聘事業研修員」「国際協力機構（JICA）自治体連携研修員」として来県した研修員も5カ国22名に上ります。また、ブラジルからの県費留学生も2006年度まででのべ55名となり、自治体レベルでの国際協力は着実に進展しております。

本年度は海外技術研修員としてブラジルから1名、モンゴルから1名の合計2名が、2か月から10か月の間、県内の関係機関で研修を受けました。

海外の地方自治体職員が日本の地方行政のノウハウなどを習得するための自治体職員協力交流事業では、1996年度から2007年度までにベトナム、韓国、マレーシア、中国から合計20名を受け入れております。本年度は、中国から1名、韓国から1名が来県され、主に鳥取県庁において研修を行いました。

なお、本年度から鳥取県と韓国江原道の交流が再開したことにより、江原道から行政実務研修生1名が来県され、鳥取県庁において研修を行いました。

これら研修員の皆さんは、言葉や気候・生活習慣の違いという壁もありましたが、研修機関の熱心な御指導もあり、技術・知識の習得に励むことができました。また、研修期間を通じての日本語学習のほか、県内および国内各地を訪れ、日本文化への理解を深めるとともに、県民との交流に努められました。

帰国後は、研修や勉学の成果を十分に活かし、母国の発展に貢献するとともに、わが国との友好の架け橋となってくれると期待しております。

この報告書は、研修員が学んだ内容や日本や鳥取県の印象などをまとめたものです。研修員の皆さんの意気込みと成果を読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり御協力いただきました関係機関の皆様に、厚く
お礼申し上げます。

2009年3月

鳥取県文化観光局交流推進課長 山本仁志

目 次

2008年度海外技術研修員等一覧	2
海外技術研修員	3
マルガレッチ タエコ フカクサ(ブラジル)	4
トゥグスオチル バヤルフー(モンゴル中央県)	18
自治体職員協力交流研修員	25
郝軍(ハオ ジュン)(中国吉林省)	26
朴プルン(パク プルン)(韓国江原道)	36
韓国江原道行政実務研修生	45
崔豪洵(チェ ホ スン)(韓国江原道)	46
県費留学生	61
ファビオ ユウジ ニシザカ(ブラジル)	62
名 簿	71
海外技術研修員	72
中国河北省技術研修生	74
中国河北省農林漁業研究者	74
中国河北省農業研修生・緑化研修生	75
中国黒竜江省農業研修生	77
韓国江原道行政実務研修生	77
自治体職員協力交流研修員	78
外務省長期青年招聘事業研修員	78
国際協力機構(JICA)自治体連携研修員	79
ブラジル県費留学生	79

2008年度海外技術研修員等一覧

1. 海外技術研修員（2名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
ブラジル	マルガレッチ タエコ フカクサ	女	25	貿易全般	(株)さかいみなと貿易センター	2008.6 ~2009.3
モンゴル (中央県)	トゥグスオチル バヤルフー	女	48	農業	県立農業大学校	2008.5 ~2008.7

2. 自治体職員協力交流事業（2名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
中国 (吉林省)	郝軍 (ハオ ジュン)	男	42	商工行政	鳥取県商工労働部	2008.5 ~2009.3
韓国 (江原道)	朴ブルン (パク プルン)	女	28	環境政策	鳥取県生活環境部	2008.5 ~2009.3

3. 鳥取県江原道相互派遣職員（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
韓国 (江原道)	崔豪洵 (チェ ホ スン)	男	41	企業誘致	鳥取県商工労働部	2008.4 ~2009.3

4. 県費留学生（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研究先	期間
ブラジル	ファビオ ユウジ ニシザカ	男	26	材料工学	鳥取大学工学部	2008.4 ~2009.3

海外技術研修員
(ブラジル、モンゴル中央県)

1 研修員プロフィール



氏 名 マルガレッチ タエコ フカクサ
年 齢 25歳
国 籍 ブラジル
出 身 サン・パウロ州、インディアトゥーバ市
研修分野 国際貿易

2 研修機関の概要

機関名 株式会社 さかいみなと貿易センター 境港市竹内団地255-3
代表者 株式会社 さかいみなと貿易センター取締役会頭 堀田 収
指導者 株式会社 さかいみなと貿易センター取締役事務部長 柴田 和

3 研修経過

月 日	研 修 内 容
2008. 6. 18	来日（成田空港）
6. 23	日本語研修開始（島根県松江市：しまね国際センター）
7. 25	天満宮夏祭（天神祭）を見学（松江市）
7. 29	日本語学習発表会・閉講式 国際交流財団米子事務所、(株)さかいみなと貿易センターへあいさつ
8. 2	「～ブラジル移住100周年～記念交流会」（出雲市）、「第35回米子がいな祭」に参加
8. 3	ブラジル交流団体連絡協議会主催の歓迎会に出席（鳥取市）
8. 4	専門研修開始（(株)さかいみなと貿易センター）（～2/27）
8. 5	ロシア極東ビジネスセミナー「変貌するロシア極東のビジネス環境」に参加（米子市）
8. 6	県庁表敬訪問 国際交流財団（鳥取市）、鳥取県文化観光局交流推進課へあいさつ
8. 7	「中国・台湾食品市場セミナー」に参加（米子市）
8. 9	「第44回鳥取しゃんしゃん祭」を見学（鳥取市）

8.	20	境港貿易振興会から事業について説明を受ける
8.	22	境港商工会議所を訪問
9.	13	国内旅行(千葉・東京)(~9/17)
10.	5	国際交流財団主催「日本生活塾」に出席(米子市)
10.	7	ロシア食材セミナー「公邸料理人から見たウラジオストクの食事情 ~日本からウラジオストクへの食品輸出の可能性~」に参加(倉吉市)
10.	12	「第25回水産まつり」を見学(境港市)
10.	20	J A くにびき「くにびき農業協同組合」を訪問、植物(牡丹)の輸出検疫等について学ぶ(松江市)
10.	23	境港管理組合を訪問、管理組合の事業概要及び境港の特徴等について学ぶ。境港港湾見学
10.	24	株式会社澤井珈琲を訪問、海外との取り組みについて学ぶ(境港市)
10.	26	「ハローほうき国際交流フェスティバル」民族衣装展で手伝う
10.	30	第3回中海圏域産業技術展 展示商談会「中海ものづくりフェア2008」を訪問(安来市)
11.	2	「境港フェスティバル」民族衣装展で手伝う
11.	18	ロシア極東ビジネスセミナー第1部「沿海地方経済発展の展望」・ 第2部「日本の小中企業の対ロシア極東ビジネス」に参加(米子市)
11.	21	境港海陸運送株式会社を訪問、港湾物流、通関業務等について学ぶ。 境港港湾設備を見学 境港市立中浜小学校でブラジルについて紹介
11.	29	「ブラジル日本移民百周年記念協会」執行委員長歓迎会に参加(鳥取市)
12.	8	株式会社ミック米子事務所を訪問、通関業務について学ぶ
12.	20	「平成20年度海外技術研修員・留学生のクリスマス交流会」に参加(日光市)
2009.	1. 21	「境港利用促進懇談会」に参加(松江市)
	1. 30	神戸税関境税関支署を訪問、税関業務について学ぶ。(境港市) 境港市立中浜小学校でブラジルと日本の文化の違いとサンバについて話す。
	2. 2	鳥取県産業振興機構、日本貿易振興機構(ジェトロ)鳥取貿易情報センター、鳥取県鳥取港湾事務所を訪問。各機関の業務内容等について説明を受ける。 鳥取港、かにっこ館、鳥取砂丘を見学
	2. 15	国際交流財団主催「ホームステイ受入講座」を手伝う(米子市)

3.	2	研修修了式・送別会（鳥取市）
3.	4	さかいみなと貿易センター、ジェット口鳥取・松江主催「初歩から学ぶ貿易実務講座」に出席、研修のおさらい（～3/5）（米子市）
3.	6	県庁研修（鳥取市）
3.	8	ブラジル友好協会・送別会（鳥取市）
3.	11	離県（鳥取空港）
3.	12	帰国（成田空港）

4 研修報告

（１）はじめに

子供のころから私の夢はアメリカと日本(私の祖父母のふるさと)に行くことでした。その頃から、私は日本語よりも英語の方が良くできたのですが、2001年9月11日にアメリカで発生した同時多発テロ事件以降アメリカに行くことをあきらめました。その後、日本に来る機会があり、日本が大好きになっていました。幸いにも、この度、境港市内の会社で7ヶ月間にわたる貿易関係の研修を受ける機会を得ることが出来ました。

外国に住むことはその国のことについて良く知ることができるばかりか、自分の国に関する新しい発見も多く、非常に良い経験となりました。日本とブラジルの間では、生活スタイルが違いますが、日本の生活に早くなれることが出来て、とても楽しく過ごすことができました。

（２）松江での日本語研修

日本語研修は2008年6月から凡そ1カ月半、月曜から金曜日、毎日7時間松江市のしまね国際研修館で受けました。研修生は中国人が4人、韓国人が1人そしてブラジル人が私を含めて2人の合計7人でした。クラスは「桜」と「だんだん」の二つに分かれていましたが、皆が大変良い友達になり、一緒にスーパーマーケットに行ったり、テレビを見たり、日本語会話の練習をしたりしました。日本語は簡単な言葉ではありませんが、研修館のスタッフは情熱があり、どんな事（質問や情報提供や案内等）にでもすぐに対応してくださり大変有難く思っています。



浴衣を着て、茶道をしました

研修では、最初の日と最後の日に筆記と面接試験があり、研修の終わりに修了証書を受け取りました。

研修館では日本語を勉強するだけでなく、日本の習慣を学んだり、経験もさせて頂きました。茶道や、日本の浴衣について教わったり、また警察や消防署等の人達のお話も聞くことができました。



しまね国際研修館、研修修了証書を受け取りました

(3) 専門研修

あいにくブラジルでは私の仕事は貿易関係ではなかったのですが、この研修の結果、私が夢見た仕事につける大きなチャンスが来たように思います。

国際貿易は国の発達や経済の成長に非常に重要ですし、また、政治、経済そして環境等の要素も含んでいます。

貿易に関しては、初めから終わりまでの基本的な全てのステップについて学ぶことができました。また、貿易関係機関や民間の会社を訪問し、その業務について説明を受けました。貿易の取引条件(インコタームズ)について詳しく学びました。更に貿易に

関するセミナー等にも参加しました。

研修の大半の事例は境港と主要な貿易相手国に関するものでしたが、私はブラジルに帰って、ブラジルの貿易手続き等を調べる時、比較が出来て、とても参考になる研修でした。

A さかいみなと貿易センター

さかいみなと貿易センターは境港 F A Z の運営組織として境港市に設立された第三セクターの会社です。この会社は物流支援施設として倉庫とビジネス支援施設として夢みなとタワーに貸事務所の運営をすると共に、貿易専門家による鳥取県の会社の貿易促進を支援する仕事をしています。



研修期間は短く感じましたが、実務的で大変有益な研修でした。一般的な説明だけでなく、重要な事は何回もリマインドして教えてもらい、また、新しい多くの専門用語を日本語と英語で学びました。さかいみなと貿易センターの皆様には心から感謝を申し上げます。皆様はいつも親切でそして辛抱強く私を支えてくれました。そして、私の健康や安全に気を使ってくれ、特に自転車に乗れない雪の日には大変お世話になりました。最後に、研修担当の方に特別な感謝を申し上げます。

B 訪問研修

境港貿易振興会（平成20年8月20日）

境港貿易振興会は境港の利用促進をする活動をしている団体です。

ここでは、境港と韓国・中国との定期コンテナサービスについて、そして取扱貨物と貨物量の推移等について学びました。境港を利用するコンテナ航路の新しいシッパーと L C L（小口）貨物利用者の拡大を旨としてインセンティブ（助成）制度を始めたという説明がありました。この制度を使って、境港の利用者が増えることを望んでいます。また、良い知らせとして、境港から韓国の東海とロシアのウラジオストクを結ぶ新しい航路ができることも聞きました。これは貨物だけでなくお客さんも運ぶ貨客船です。境港が外国との物流窓口としてだけではなく、外国の人や文化の交流窓口として、益々繁栄することをお祈りしています。

ＪＡくにびき「くにびき農業協同組合」(平成２０年１０月２０日)

松江市のＪＡくにびき「くにびき農業協同組合」を訪問して牡丹の輸出業務について勉強しました。砂や土、あるいは虫がついている物の輸出は禁止されていて、牡丹のような植物はその可能性が大きく、輸出対策について全体の行程を見ることができて、大変興味深い経験でした。

組合では、最初、牡丹の海外への販売ルートや、輸出手続きなどについて説明を受け、それから、土を機械で洗い落とし、虫は植物をお湯につけて殺し、検査をする全ての工程を見せてもらいました。輸送方法は相手国によりリーファーコンテナと航空便を使います。ブラジルでも観賞植物や装飾用の花を欧米に輸出しています。

境港管理組合(平成２０年１０月２３日)

境港は島根半島に保護され、自然の条件に恵まれた大変良い港です。日本の代表的な漁港であるばかりでなく、境港は日本海の国際貿易港として戦略的な場所にあり、中国、韓国、ロシアに近く、環日本海のゲートウェイとして、これから益々期待される港です。私は港の管理等について勉強するために、境港管理組合を訪問しました。境港の歴史や、自然条件に恵まれた良い港であること、組合の組織と業務の内容、貿易の概要、ここ数年増えている客船について、また、港の施設等について丁寧に教えてもらいました。その後で、境港を隅から隅まで見学させて頂きました。ガントリークレーンはコンテナ処理が早いことや、４月に予定されている東海とウラジオストクを結ぶＤＢＳライン用に新しい通関施設が建設中であることも知りました。実際に見る港は、写真で見ると違って、とても良い経験になりました。



境港コンテナヤード（ＣＹ）と島根半島

株式会社澤井珈琲（平成20年10月24日）

澤井珈琲を訪問し、澤井社長からその会社の海外ビジネスについての話を聞きました。直接貿易としてコーヒー製品を台湾に輸出し、中国からはコーヒーカップやコーヒー缶等のグッズを輸入しています。しかしコーヒー豆は主にブラジルとコロンビアから商社と問屋経由で輸入する間接貿易です。澤井社長からは外国の会社との取引を成功させるための重要なアドバイスを頂きました。それはお互いの信頼に支えられた良い関係をつくること、意見の違いや誤解を克服することにより余計な経費を減らしたり、為替差損を避けることになること等です。

また、澤井珈琲は製造法に氷温手法も使っています。氷温は私の知らなかったことで、大変興味深い技術だと思います。

最後に、工場内を見学し珈琲製品が出来る工程を勉強しました。

中海ものづくりフェア2008（平成20年10月30日）

「中海ものづくりフェア 2008」は安来市で開催された展示商談会で、中海圏域の多くの会社が機械金属製品や加工食品等を出品していました。一つ一つ、会社や製品のことについて説明と案内をしてもらい沢山のことを学びました。中でも廃棄物を利用して環境への影響が少ない製品が強く印象に残りました。どこにいても、環境に対する強い関心を持たなければなりません。

同じような展示商談会が、私の育ったブラジルのインディアツーパーバ市から一番近いところでは、サン・パウロ市で開かれます。残念ながらこれまでは行かなかったのですが、帰国したら是非見に行きたいです。

境港海陸運送株式会社（平成20年11月21日）

境港海陸運送は境港で迅速で安全な輸送業務サービスを提供しています。この会社は船会社の代理店や通関業務もしています。

船の入港から出港まで、船に関係するお世話は何でもする専門的な代理店で、はしけもあり、丸太の木等は海の上をはしけで移動させます。船の入出港に必要な書類を作成し、船員のお世話や、貨物の取り扱い、通関や保稅に關係する事、そして消費稅や輸入稅の集金も行いま



新しいガントリークレーン

す。

この他に、様々な港湾業務や、引越し業務もあります。この会社は地域社会への貢献活動やソーラー発電による環境に配慮した取組もしています。会社案内のビデオを見て、業務について説明を受けた後、コンテナヤードに案内していただき、境港に出入りする船の種類、コンテナの仕組み、港湾で使われる輸送装置、CFS倉庫等について詳しく教えていただきました。

株式会社ミック（平成20年12月8日）

ミックは専門の通関業者です。輸出入に使われる書類の内容や、その他の通関手続きについて教えていただきました。またコンピューターによる通関システムNACCSへの情報の入力・出力についても説明いただきました。この会社は、通関毎に変わる貨物の輸出入に必要とされる全ての手続きを提供します。例えば：

- ・ 輸入手続きに際しては税関への申告が必要です。そして製品によっては輸出入許可を受ける必要があります。
- ・ 製品が植物、動物或いは食品の場合、手続きには特に注意を払わなければなりません。

例えば、検疫手続き或いは検査証明書等が通関時に要求される事があります。

- ・ 輸出入当事者間で決めた貿易条件（インコタームズ）によっては、運賃と保険の適用が異なります。
- ・ 運送方法（海上輸送、航空輸送、陸送あるいはマルチモーダル輸送）によって一般的にはB/Lと言われる運送・受取り証明書が異なります。

このように、特に細かい事についての注意が重要なこととなります。

この仕事では単純なミスが大きな損失を引き起こすことがあり、ミスを避けなければなりません。

神戸税関境税関支署（平成21年1月30日）

日本には鎖国時代があり1853年のペリー（米国）の来日により開国となりました。1859年には函館、神奈川と長崎の港が開かれて運上所が設けられました。運上所は、後で税関という名称に変わりました。「税関」という言葉には大変興味深い意味があります。「税」は税金のことで、「関」は昔の「関所」の関で、法律に違反している物や人がその国に入らないようにチェックして、必要な場合は税金を受け取ります。境税関は神戸税関に属しています。

日本の税関は、貿易の円滑化を進め、水際での取締り等により国民の安全・安心を実現し、適正かつ公平に関税等を徴収することを目指しています。

NACCSの説明の中で、輸出入の審査区分がブラジルとは少し異なるということが分かりました。

日本では、簡易審査、書類審査そして貨物検査の3つの審査区分がありますが、ブラジルでは緑、黄、赤そして灰色の4つに区分されています。初めは交通信号のように緑、黄、赤の3区分でしたが、外国貨物が簡単に早く国内に入ってくるため、違法な貨物も沢山輸入されました。その後で灰色が追加されました。灰色と区分された申告は通関完了までに少なくとも10日はかかります。

税関ではAEO(Authorized Economic Operator)制度についても学びました。この制度は国際物流が飛躍的に増加している中で、貿易のセキュリティを確保して、さらに貿易をスムーズにするということを目指しています。そこでコンプライアンス(法律などを守ること)の優れた会社等を税関が認定し、通関手続きが簡単に出来る等のベネフィットが与えられるものです。

鳥取県産業振興機構(平成21年2月2日)

鳥取県産業振興機構は県内の、特に中小企業を対象として、産業や工業の発展のために様々な支援をしています。その使命は大きく分けて5つあります。その中にはビジネスマッチング、商談会等の協力や助成金による支援を通して国内及び海外での販売チャネルの開拓サポート、産学官等のコーディネートや、町の中心街の活性化などのサポートもあります。

鳥取県の会社のほとんどは中小企業だと聞いています。鳥取県産業振興機構の支援は中小企業が成長する為に大変有益なものだと思いました。

日本貿易振興機構(ジェトロ) - 鳥取貿易情報センター(平成21年2月2日)

ジェトロは外国企業とのビジネスマッチングの促進、契約のサポート、外国の会社の日本進出の支援等を行う国際的なビジネス支援機関です。外国では簡単な市場調査を行ったり、日本との取引や投資に関心がある外国企業に、或いはその逆で日本企業に、有益な情報や支援を提供し、そして相談を受付けています。

ジェトロのデータベースから、国あるいは地域別に経済や貿易に関する情報が収集できます。また外国出張の時には、外国の会社とミーティングのアポイントも取ってもらえます。

ジェトロのブラジル事務所はサン・パウロ市にあります。ブラジルに帰ったら、ジェトロの事務所に行ってみるつもりです。

鳥取県鳥取港湾事務所（平成21年2月2日）

鳥取県鳥取港湾事務所では港湾の特徴、主な取扱貨物、貿易とCIQそして港に出入りする船の種類等について学びました。

残念ながら境港と比べて、鳥取港は自然の条件に恵まれていないようです。鳥取港が千代川の河口に接しており、川の流れと海流がぶつかり、砂が港湾内に堆積すると聞きました。この砂を掘り上げて、船が通れるように海を深くします。この話を聞き、境港との自然条件の違いを知りました。鳥取港の貿易は、以前は石や砂の輸入がありました。現在は融雪材として中国から塩の輸入が時々あるだけです。輸入貨物の通関は境港で行います。また、取扱貨物の大半は内航船で輸送される建設資材です。港の取扱量は公共の建設工事が減ったため減少しています。しかし、港の近くには海水浴場やヨットハーバーが整備されていて、緑地も広がっています。鳥取港は多くの人達に愛される港だという印象を持ちました。

C 興味

こちらに来たときは、財務に関しても学びたいと思っていましたが、私の興味は少しずつ変わっていきました。通関業者を訪問したり、貿易や通関の手続き、そして、それに関する書類等について説明を受け、その専門的な仕事の内容を知ることは、私にとって新しい発見で、私の興味をそそぐものでした。そして、とてもワクワクする仕事だと思えました。

貿易の取引条件や、通関に関する法律等について、もっと勉強を続けて、将来は、専門家として通関に関係する仕事が出来ればと思います。ブラジルも密輸入を減らさなければなりません。私は、このことに、仕事を通して協力したいです。

この7ヶ月間はとても早く過ぎましたが、一生懸命勉強しました。これからも、難しくても頑張ります。

(4) ブラジル情報

A ブラジルの貿易、そして思った事

2008年のブラジルの輸出額は約1,979億ドル、輸入額は約1,732億ドルで貿易収支は約247億ドルの黒字でした。輸出と輸入は過去最高の金額(4年前の2倍)でしたが、ブラジルも金融危機から逃げる事はできません。貿易収支の黒字は続いているのですが、過去4年間の貿易結果を見てみますと、ここ2年、貿易黒字は減っているのが分かります。しかし、それと同時に、国際貿易の中でブラジルのプレゼンスは増えていて、ブラジルの会社の国際化は進んでいます。

ブラジルの場合、貿易量の80%以上が海の港を通して行われており、港のインフラとロジスティクスに頼る部分が大きいです。2010年までにブラジルは輸出の拡大と中小企業の輸出振興のために340億レアル(約147億ドル)を投資する計画です。ブラジルの港は作業の効率を上げ、経費を減らし、投資を引き込み、拡大を続け、そして競争性を維持するために港の整備と近代化が非常に重要だと思います。

港湾での勉強を含み日本の貿易について学んだ結果、新しい、或いはブラジルとは異なる数多くの改善のための手がかりを得ることが出来たと思います。このことはブラジルで貿易関係の仕事をする場合私の将来に必ず役に立つでしょう。

B インディアツーパー市

私が生まれたのはサン・パウロ市ですが、子供の時にサン・パウロ州のインディアツーパー市に移りました。そこで、インディアツーパー市について紹介します。

人口約18万人のブラジルでは小さな町に入りますが、生活の質は良い方です。工業地域の発展と人口の増加により、新しい地域が出来て物とサービスのニーズも増加しています。

今では主な農産物は葡萄で、年間凡そ400万箱を生産していて、州内では生産高が5番目に大きい町となりました。おいしい葡萄酒も沢山つくられています。また、トヨタ、ヤンマー、ゼネラルモーター、ユニリバー、エリックソン等の大規模な工場は、市の経済成長や雇用に非常に重要な役割を果たしています。

市内には空港も海港ありません。一番近い空港は市から10kmの所にあるピラコボス国際空港で、そこにはブラジルで2番目に大きな貨物ターミナルがあります。サン・パウロ州には二つの大きな海港があります。それは、私の市から182km離れているサントス港と290kmのところにあるサン・セバスチャン港です。

文化的には、インディアツーパー市は、スペイン、ドイツ、イタリア、スイスからの移民、そして多くの日本人移民並びに混血の人たちで構成されていて、各民族毎に協会があります。私はインディアツーパー日伯文化体育協会に属していて、ここではイベントの促

進に協力したり、いろいろなお手伝いをしています。

サン・パウロ市には日系人の県人会が多くあります。私は鳥取県人会に属していて、この研修は県人会を通して実現しました。鳥取県人会の皆様にも厚く感謝を申し上げます。私の町からそこまでは、車で約1時間半かかりますが、これからも出来る限りのお手伝いをしようと思っています。

(5) 文化交流

研修とは別に、あちこちで観光をしました。日本の各地方には特徴的なお祭りがあります。その中で山陰地方のお祭りを見ました。それらは松江の天神祭り、米子のがいな祭り、鳥取のしゃんしゃん祭りと境港の水産祭りです。私の印象に残ったことについて書きます。



- ❖ 天神祭りではおみこしをかつぐのは大変です。それでも皆さん最後までとても元気でした。お疲れ様でした。

- ❖ がいな祭りの「がいな」は米子弁で「大きな」という意味です。祭りでは、万燈や太鼓等のパレードの後、子供と大人の万燈のコンテストがあります。万燈が一番高いところでバランスが取れたらスゴイという気分になります。そして夜になると万燈の中にあかりがつくので一層きれいになります。



「米子がいな祭」でパレードに参加したの人達



夜、がいな祭の万燈

- ❖ しゃんしゃん祭りでは金銀の、きらびやかな傘に沢山の鈴をつけて、グループ毎におそろいの着物を着て踊ります。その踊りはとてもかわいいと思いました。



しゃんしゃん祭のきれいな傘

- ❖ 水産祭りには境港で揚げられたカニが沢山ありました。また、有名なドジョウすくいの踊りも見ることができて楽しかったです。



境港の美味しい揚げられたカニ



ドジョウすくいの踊り

ブラジルで有名なお祭りはカーニバルです。昨年、移民百周年記念のお祝いが行われた場所（サン・パウロのアニエンビ）と同じところで開かれます。カーニバルにはそれぞれのグループは自分達のテーマをもって参加します。太鼓を叩いたり、グループ毎にサンバを踊ったりします。とてもカラフルな祭りです。皆様も日本のお祭りだけでなく、カーニバルも是非ご覧下さい。

境港市の小学校でブラジルについてお話をしました。子供たちは、その国の人から直接話が聞けるし、また直接質問をすることができるので、子供たちにとってはブラジルのことを学ぶ良い機会だったと思います。逆に、私にとっても新鮮な経験でした。

日本文化に触れるばかりでなく、世界の民族交流もありました。例えばモンゴルのホーミーを見たり、よその国の民族衣装を着たり、友達と中国料理を作りました。また、栃木県日光市で行われた研修生と留学生の伝統あるクリスマス交流会にも参加しました。本当に素晴らしい体験でした。



民族衣装でベトナムのアオザイを着てみました

(6) 終わりに

このような研修の機会を与えてくださり大変有難うございました。自分自身の成長と国際交流に非常に重要な機会となりました。私はこの経験を生かそうと、出来る限りの事を学びました。日本語を勉強し、貿易実務を学び、港の施設の見学や観光に行き、そして多くの人たちと友達になり、本当に最高の経験だったと思います。研修に際して日本でお会いした方々、ブラジルの関係者の方々、皆様はとても親切で、良く支援してくださいました。心から感謝を申し上げます。

1 研修員プロフィール



氏 名 トゥグスオチル バヤルフー
国 籍 モンゴル
出 身 モンゴル中央県ズーンモド市
研修分野 農業（野菜栽培）

2 研修機関の概要

機関名 鳥取県農林水産部農業大学校教育研修部
鳥取県倉吉市関金町大鳥居 1 2 3 8

代表者 鳥取県農林水産部農業大学校 校長 藤原 明康

指導者 鳥取県農林水産部農業大学校 助教授 長江 弘志

3 研修経過

月 日	研 修 内 容
2008 . 5 . 14	来県
5 . 15	研修開始
5 . 16	スイカ整枝、スイカの栽培方法を研修、トマト腋芽とり
5 . 19	キュウリ定植、トマト誘引、サツマイモ定植
5 . 20	ジャガイモ追肥・土寄せ、トマト支柱立て、生産物出荷、現地スイカ・メロン見学
5 . 21	スイカ整枝・つる引き、ミニトマト支柱立て、カボチャ・ズッキーニ定植
5 . 22	メロン支柱立て、ゴボウ土壌消毒、キュウリネット設置・誘引
5 . 23	栄養診断について研修、甘長トウガラシのシートしき
5 . 26	スイカつる引き・交配、ミニトマト誘引、栄養診断方法について研修
5 . 27	スイカ交配、メロン玉つり、ジャガイモ土寄せ、ジネンジョ定植
5 . 28	田植え実習、消防訓練、トマトホルモン処理

5. 29	スイカ交配・除草、クッキングトマト捻枝・誘引
5. 30	スイカ交配、中玉トマト調整
5. 31	スイカ交配
6. 1	スイカ交配
6. 2	スイカ交配、ミニトマト腋芽とり・誘引・収穫、キュウリ収穫・防除、メロン整枝、スイカ整枝、ナス定植
6. 3	スイカかん水、トマト摘果、パプリカ誘引、栄養診断方法について研修
6. 4	カボチャ敷きわら、スイカ防除
6. 5	メロン摘果、中玉トマト腋芽とり、メロン摘果・腋芽とり
6. 6	スイカ摘果、生産物出荷、ジネンジョマルチ
6. 9	トマト脇芽とり・誘引、研修に関する検討会、ジャンボピーマン調整
6. 10	スイカ・トマト・キュウリかん水、キュウリ収穫・整枝、生産物出荷、スイカ台木は種、パプリカ整枝・誘引
6. 11	園試訪問、ニンニク除草、トマトホルモン処理
6. 12	キュウリ整枝、トマト摘果・脇芽とり・誘引、スイカトンネル除去、ジャンボピーマン収穫調整
6. 13	スイカは種、病害虫関係研修
6. 16	キュウリ収穫・整枝・誘引、トマト収穫・整枝・誘引、メロン摘芯・整枝、キュウリ防除
6. 17	メロン整枝、スイカシートしき、スイカ防除、農大市
6. 18	韓国研修生と交流、農産物出荷、スイカ防除
6. 19	トマトホルモン処理、花き関係研修
6. 20	トマト整枝、キュウリ収穫調整、生産物出荷、メロン整枝・摘果
6. 23	トマト・キュウリ収穫調整、スイカ接木、トマト摘葉
6. 24	キュウリ整枝、トマト摘果、トマトは種
6. 25	スイカかん水、トマト調整・ホルモン処理
6. 26	収穫調整
6. 27	収穫調整
6. 29	国際交流研修
6. 30	収穫調整、病害虫関係研修
7. 1	研修科現地研修
7. 2	トマト・キュウリ収穫調整、キュウリ整枝、トマト誘引、農大市、スイカ防除、病害虫関係研修

7. 3	トマト・キュウリ収穫調整、キュウリかん水、病害虫関係研修
7. 4	野菜科現地研修
7. 7	トマト・キュウリ収穫調整、生産物出荷、病害虫関係研修
7. 8	研修報告作成、病害虫関係研修
7. 9	トマト加工研修
7. 10	研修修了式・意見交換会
7. 11	研修修了
7. 12	離県

4 研修報告

モンゴル国中央県から農業研修生として今年の5月14日鳥取県に来ました。

関金町の農業大学校で2ヶ月間研修をしました。

研修期間中1棟のハウスを担当し、そこでトマト、キュウリ、スイカを栽培し、時間がある時には学生たちと一緒にメロン、ピーマン、ズッキーニ、ミニトマト、ナス、ジャガイモ、ネギなどの野菜の世話などをしました。

以前知らなかったスイカの摘心、交配、子づるを延ばしたり、キュウリを親づると子づると孫づるを延ばしたりして栽培する方法を勉強し、トマトの育成中の注意事項を知りました。

研修期間、ハウスに虫を入らないようにする薬を3回、病気を予防する薬を2回撒きました。

私の研修の主な目的は

1. 堆肥の不足、使い過ぎを分かるようになる
 2. 野菜の病気を見て分かるようになる
 3. 接ぎ木の仕方を学ぶ
- 等でした。

トマト、キュウリ、スイカ、ピーマン、ナス、メロン、ズッキーニ、キャベツ、白菜、ニラ、ネギ、玉ねぎ、大根、人参、ジャガイモなどの野菜に12種類の堆肥使用量の過不足によって野菜の葉っぱや他のところがどう変わっているかについて、本をみて勉強し、資料をコピーしました。

20 種類の野菜に現れる 165 種類の病気の写真もコピーし、その病気の表れ方、広がり方、そしてその病気の対処方法などを先生に教えていただきました。

帰国した後も、そのコピーした写真を実際作った野菜と比較しながら新たに経験をつみ、もっと勉強していきたいと思います。

スイカの接ぎ木で栽培することを学びました。接ぎ木するには温度を管理するのが一番大事だということを知りました。

上に述べた野菜の栽培方法、世話などで以前分からなかったことを沢山勉強しました。鳥取の農業大学校で学んだ新しい技術を母国中央県の農家たちの全部教えてあげます。

また農業大学校にいる間、韓国江原道から来られた農家たちと一緒に農大を視察しました。素晴らしかったです。

農大の皆さんと一緒に米子、倉吉へ行きました。倉吉のスイカ農場、花屋さん、トマト、ネギを作っている農家を視察しました。一般の農家の畑やハウスも見るチャンスを与えてくださってありがとうございます。

野菜科の学生たちと一緒に大山へ登りました。良かったです。

暇のとき、いままで出た野菜など専門用語の簡単な辞書を作りました。

- 交流事業として、5 月 25 日花回廊、夢港タワー、魚の市場などを親善協会の山本さんに連れて行っていただきました。
- 6 月 7 日、日本の昔の家を見ました。また浦富海岸に行き、船にも乗りました。(宮田、山本)
- 6 月 14 日、大山のミルク工場を視察出来ました。大栄町のスイカ農場、種屋さん、トマトや花を作っている農家を訪問しました。(秋山、山本)
- 6 月 22 日、農大の先生たちと一緒に神戸行きました。
- 6 月 29 日、農大の国際交流事業でモンゴルの家庭料理となるホーシユール、ボーズ、バンシタイツァイ(餃子入りのミルクティ)を親善協会の会員や農大の先生たちと一緒に作りました。
- 7 月 6 日、中央県からきた子どもたちと一緒に青谷の子ども学園で楽しい交流ができました。

鳥取で学んだことを是非活かしていきますので、これからも皆さんの暖かい応援を宜しくお願いします。

< 農業大学校での研修作業 >



~ ハウス内作業(トマト) ~



~ 摘心(パプリカ) ~



~ 接ぎ木(スイカ) ~



~ 種まき(スイカ) ~



~ 種まき(ハウレンソウ) ~

< 来県中の各地での思い出 >



～ 浦富海岸（松島遊覧）～



～ 大山乳業工場見学～



～ とっとり花回廊～

< モンゴルのハウスで開催した野菜講習会 >



大勢の農家等に野菜指導等を行っています。

自治体職員協力交流研修員
(中国吉林省、韓国江原道)

1 研修員プロフィール



氏 名 郝軍（ハオ ジュン）
 国 籍 中華人民共和国
 出 身 吉林省長春市
 研修分野 商工行政

2 研修機関の概要

機関名	鳥取県商工労働部	
代表者	鳥取県商工労働部長	門前浩司
	産業振興戦略総室長	岡村整諮
指導者	産業開発チーム長	中林圭一
	産学金官連携チーム長	野口 誠
	新事業開拓チーム長	酒井崇行
	企業立地推進チーム長	中山孝一
担当者	産業振興戦略総室主幹	草野雅昭
代表者	経済雇用政策総室長	木村 敬
指導者	通商物流チーム長	吉川寿明
	通商物流チーム主幹	坂本光隆
担当者	経済雇用政策総室主幹	山下喜夫

3 研修経過

月 日	研 修 内 容
2008 . 5 . 18	来日。
5 . 19	東京都内オリエンテーションで開会式に参加しました。
5 . 20	東京都内国会議事堂とごみ処理場を観光しました。
5 . 21	滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所の弥生クラスで日本語研

	修開講。
5. 24	スタディーツアー（琵琶湖博物館、石山寺見学と信楽焼体験）。
5. 30	試験しました。そして日本の自治制度を理解しました。
6. 4	茶道を観賞。
6. 5	京都大学で日本語の実践活動をしました。
6. 7	京都市内観光（二条城、金閣寺、清水寺、西陣織見学）。
6. 13	日本の教育の状況を理解しました。
6. 17	日本語研修最終発表会。
6. 19	閉講式、滋賀県を離れ島根県に移動。
6. 20	島根県松江市しまね国際センターの桜クラスで日本語研修開始。
6. 26	松江消防署の者は消防の知識と応急手当の知識を講義しました。
7. 4	交流会で先生達と餃子を作って、中国民歌を歌いました。
7. 5	松江市市民文化会館で老年市民と交流を行いました。
7. 7	“乞巧節”の祈願紙条を製作しました。
7. 14	友好会で日本語の会話を練習しました。
7. 29	日本語研修発表会・閉講式。
7. 31	鳥取県国際交流財団で国際交流を参加しました。
8. 1	産業振興戦略総室へあいさつ。外国人登録。
8. 4	商工労働部にて専門研修開始。交流推進課で補佐に鳥取県の紹介を聞きました。
8. 6	副知事に表敬
8. 7	米子市に中国上海と台湾食品市場の報告会を聞きました。
8. 9	県庁連としゃんしゃん祭りをして見せました。
8. 12	産業開発チームで商工部施策の概要と次世代改革についてを研修しました。
8. 19	倉吉市で準備会を参加しました。
8. 22	知的財産事業の説明を聞きました。
8. 28	米子市での報告会を聞きました。
8. 29	鳥取県産業振興機構と鳥取県産業技術センターを見学しました。
9. 1	湯梨浜町の鳥取県衛生環境研究所を見学しました。
9. 4	鳥取大学産学・地域連携推進機構、工学部、医学部、農学部、乾燥地研究センターへ学内視察に行きました。
9. 5	鳥取環境大学で＜ITTRの戦略と実現に向けて＞講演を聴きました。
9. 12	鳥取年金会館で産業デザインフォーラムを主催しました。

9. 18	米子市鳥取大学医学部で開催された 20 年度鳥取大学振興協力会西部地区交流会に参加しました。
9. 22	鳥取港と工業団地を見学しました。
9. 24	株式会社HRDを見学しました。
9. 25	米子市と境港市へ行きました。株式会社ゴール米子工場、株式会社日新、ユタカフーズ株式会社鳥取工場を見学しました。
9. 26	倉吉市と鳥取市の工業団地を見学しました。
10. 1 ~2	新事業開拓中の事経営革新計画とトライアル発注制度と展示会事業などについて説明してもらいました。
10. 9	東伯郡湯梨浜町(株)キラらきっずへ面談に行きました。
10. 10	新事業チームと市場開拓室のメンバーと会を開きました。
10. 15	八頭郡船岡町の大洋潜水会社へ面談に行きました。
10. 16 ~17	秋季研修で東京に行きました。(成果発表会、交流会。江戸東京博物館と浅草を視察)
10. 22	広島県マツダ株式会社に行き、中国地域新技術新産品展示商談会を視察しました。
10. 29 ~30	横浜市 FPD International 展示会を視察しました。草野さんと鈴木さんと竹市さんと林さんと一緒に中国人に鳥取県の企業と産業振興機構を紹介しました。
11. 4	経済雇用政策総室にきました。
11. 5	担当者山下さんに H20 年度経済雇用政策総室の事業別チェックリストと事業分担と次世代改革施策の概要などを紹介してもらいました。
11. 6	米子市と境港市と安来市に 4 企業を見学しました。
11. 7	午後、日本中国親善交流事業意見交換会に参加しました。
11. 11	名古屋市で長野県モノづくり技術展を視察しました。西区則武町ノリタケの森を見学しました。
11. 12	長野県諏訪市でセイコ・エプソン(株)と長野県工業技術総合センター電子技術部門を見学しました。世界最速試作センター講演会を聞きました。
11. 13	諏訪市中洲(株)共進を視察しました。
11. 18	大阪市に第 8 回日本と中国経済討論会お参加しました。一部の日中経済発展問題について講演を聴きました。
12. 3	白兔会館で企業の講演会に参加しました。
12. 10	鳥取産業会館と鳥取商工会議所ビル落成式に参加しました。

12. 17	山東省社会労働保障庁の訪問団員が知事を表敬し、それに参加しました。
12. 19	気高電機株式会社を訪問しました。
12. 22	境港市で研修。港湾内の埠頭と境港市内を視察しました。境港管理組合と境港貿易センターと貿易振興会に業務内容等について研修しました。 午後 境港市通商課で業務内容等を研修しました。境港商工会議所名誉会頭足立統一郎さんを表敬しました。水木しげるロードを見学しました。
12. 24	鳥取県産業技術センターで公開セミナー〈頑張れ鳥取〉を聞きました。元鳥取三洋電機(株)代表取締役社長米山幸太郎氏から地域産業の未来等について講演を聴きました
12. 25	サンライズ工業を訪問しました。
2009. 1. 12	吉林省と鳥取県とが来年度交流協議を傍聴しました。
1. 15	中国地域産総技術ミナー in 交流会鳥取に参加しました。5の講演を聴きました。
1. 16	島根県松江市で境港利用促進懇談会に参加しました。
1. 25	鳥取環境大学で新しく進出する企業経営者の講演を聞きしました。
1. 26	H20年度工業高校等実践教育導入事業(成果普及発表会)に参加しました。
2. 3 ~4	大阪市で〈大阪勧業展覧 2009〉に参加しました。昭和貿易株式会社と豊和貿易株式会社に訪問しました。
2. 5	東京JETRO本部で「中国進出企業の再編、撤退の実務」を聞きしました。
3. 6	研修修了式・送別会にて研修成果発表
3. 20	米子空港より帰国

4 研修報告

(1) はじめに

平成20年度自治体職員協力交流研修員として、私は鳥取県商工労働部の産業振興戦略総室と経済雇用政策総室で研修しました。私の職場は「中国吉林省発展と改革委員会」です。これは吉林省政府の総合経済管理部門です。業務内容は経済や社会の発展と改革

することです。日本には世界第二位の先進国で、市場経済体制を完備し、たくさんの経験と方法があります、ですから、中国の鏡や先生であり、見本でもあります。各担当者の助けにより、鳥取県の経済社会の発展の状況を知り、併せて、鳥取県産業振興と経済雇用の面で良い経験と仕事の方法を学びました。また、県内外のいくつか企業と機関を見学しました。この研修期間は、私にとって大きい収穫となっただけではなく、日本地方政府の経済管理の理念、企業と社会にサービスについて、とても深い印象を残しました。

日本語と日本文化などの集中研修

A. 東京研修

5月18日に来日、37名海外の研修員と一緒に東京の総務省でオリエンテーションに参加し、日本の地方自治体について講義を受けました。また、日本の国会議事堂、現代化のごみ処理場を見学しました。日本についての最初の印象は経済が発展し、モラルが高く、環境豊かな国です。

B. JIAM 研修

5月21日から、滋賀県大津市の全国市村町国際文化研修所（JIAM）で、一ヶ月間日本語や日本の経済と社会が発展、地方行政制度、伝統文化、食事の礼儀を学びました。毎日、テストと宿題は難しかったですが、須永先生と吉村先生とともに、弥生クラスで日本語を学んだ生活は、本当に楽しく忘れがたい日々となりました。

研修所の近くには、日本の最大の湖である琵琶湖があり、琵琶湖博物館を見学しました。京都の金閣寺、清水寺、二条城を遊覧しました、たくさんの中国観光客を会いました。宗陶苑では自分で陶器を設計して作って楽しい時間を過ごしました。また、京都大学でアンケートを実施し6月17日に発表しました。

C. 松江研修

6月19日から7月29日までに島根県松江市しまね国際研修館で3名の中国人、1名の韓国人、そして、2名ブラジル研修員と一緒に日本語を勉強しました。坂本館長、西村さん、河西さん、熊谷さん、片山さん、小沢さんが、我々に日本語を教えてくださいました、日本人の仕事熱心なところを見せてくれました。この期間、私の日本語はとても進歩しました。

宍道湖と松江城の景色がすきでした、たくさんの写真を撮りました。そのときは楽しかったけれども、いつまでも忘れられません。

元々漢字は中国から日本に入りましたが、明治維新以後日本で生まれた現代用語が中

国に入っていました。日本語の学習するにつれ、両国間における文化緊密度が深いことが分かってきました。

D．秋季研修

10月18日に、全国にいる研修員が東京に集合し、研修しました。10月19日に、江戸東京博物館、浅草寺を見学して、江戸時代の歴史と文化を学習しました。また、中国の研修員も一緒に台場公園とフジテレビを視察しました。更に我々は東京タワーで綺麗な夜景を観賞しました。日本では文化を保護すること、そして文化関連産業が盛んであることに深い感動を覚えました。

(2) 専門研修

8月4日から、鳥取県での本格的な研修が始まりました。まず、文化観光局交流推進課松島補佐より鳥取県の状況について紹介を受ました。そして、中林チーム長より商工労働部産業振興戦略総室と次世代改革の資料を元に、鳥取県商工労働部施策の概要を研修しました。また、各部事業概要を聞き、現場視察をしました。主に、商工労働分野についての専門研修を行いました。

産業振興戦略総室

産業振興戦略総室は、産業開発チーム、産学金官連携チーム、新事業開拓チーム、企業立地推進チーム、雇用・人材確保チームで構成されています。整った法律、国と県の政策、資金援助、様々な施策で、産業の振興を促進しています。そのなかで、それぞれの企業支援政策と優待措置を勉強し、企業訪問をしました。政府と企業と市場の関係について関心を持つ事が出来ました。特に、企業誘致、資金支援、株式市場への上場、産学金官連携について、関心を持ち、重点的に勉強しました。

経済雇用政策総室

経済雇用政策総室は通商物流チーム、企画調査チーム、経営支援チーム、労働政策チーム、雇用就業支援チームで構成されています。平井県政最大の課題は産業振興と雇用確保。昨年末、県内経済の低迷や派遣労働者の解雇等による雇用機会の縮小に対処するため、緊急経済雇用対策本部を設置しました。急激な雇用悪化に伴い、県では、相談窓

口の設置、資金繰りに困っている事業主への対策、雇用維持のため事業への対応などを次々と決定しました。これらはすべてタイムリーな措置です。

今年、DBS 航路の開通は日本の境港と韓国の東海とロシアのウラジオストックの貨客船の就航に向け邁進しています。これは環日本海地区の経済協力にとって重要で歴史的な意味があります。

産業振興機構、産業技術センター

産業振興機構は地元の産業振興のために、地域経済活性化に取り組んでいます。特に中小企業をサポートしています。これらの団体は、政府と企業との架け橋の役割をしています。産業技術センターは中小企業のために技術サポート、科学研究にサービスと人材育成を提供しています。中国の中小民営企業は特にこのようなサービスを必要とします。

鳥取大学

鳥取大学産学・地域連携推進機構、工学部、医学部、農学部、乾燥地研究センターへ学内視察に行きました。鳥取大学は人材の育成の揺りかごだけではなくて、科学研究の活動の基地として、産官学連携の重要な組織です。

企業訪問

研修機関で、多くの幅広い分野の県内、県外企業を訪問しました。企業支援制度、企業立地推進、新事業開拓、様々な内容を目的にした企業現場見学して、企業のためのサービスしそして、地域産業の振興施策を勉強し理解を深めてきました。

報告会、展覧会を参加

私は鳥取県各地で催す学術の報告会に参加しました。中から大量の最新の情報を獲得して、政府、科学研究の機関（大学）と企業の間が続けて活動の状況を携えることをも知ります。展覧会で、私も県職員とともに中小企業を見て、たくさんの市場に接触しました。

社会文化生活体験

A. しゃんしゃん祭り

鳥取市の代表的な祭りである第44回のしゃんしゃん祭りに参加しました。これは鳥取県無形民俗文化財に指定されている伝統芸能「因幡の傘踊り」です。行われた祭りには、私は、知事と副知事とともに県庁連と一員として行進に参加しました。これは普段なかなか経歴でした。

B. 日本料理

日本料理は栄養に富み、美しいだけでなく、更に健康な食品です。日本人の長寿とこのことは大きな関係があります。私はとても刺身と寿司が好きです。時々自分で味噌汁を作りました。

C. 相撲と演歌

私は多くの中国人と同じで、相撲がとても気に入りました。その観賞性、興味性はすべてとても強いです。多くの人生の哲理を含んでいます。選手達は強健な体があるだけでなく、更に良好な教養を持っています。勝敗は一瞬の間にただ決定しますが、しかし、選手の努力は長い時間を必要とします。選手同士熟知しているため、最大の敵は自分です。

私の学生のとき、多くの日本の歌が中国で流行しました。それらの優美なメロディーは人々のすばらしい感情を表していました。私の最も好きなのは五木ひろしの《千曲川》です。

D. 歓迎会と忘年会

私は交流推進課、産業振興戦略総室と経済雇用政策総室通商物流チ-ムで催された歓迎会に参加しました。たいへん感動しました。交流推進課と経済雇用政策総室の忘年会に参加しました。岡村総室長と木村総室長には大変お世話になりました。各チ-ム長と職員は皆非常に友好的でした。通商物流チ-ムの職員は更に明るくたくさんのことを教えていただきました。みんな素晴らしい友人です。

国際経済文化交流活動

鳥取県と吉林省は、政府間の経済、文化交流など多岐にわたっています。1994年に

は吉林省から国際交流員が初めて鳥取県に派遣され、現在も継続的に交流研修員の派遣を受け入れています。また、1995年からは鳥取県職員13人を東北師範大学に派遣しています。鳥取県商工労働部の職員と企業は副知事とともに吉林省で開催された北東アジア投資貿易博覧会に参加しました。

私も鳥取県で国際交流活動に参加しました、その際にたくさんの日本人と会いました。彼らとの交流で日本人の生活を知り、同時に、彼らに中国の現在のいくつかの状況を紹介しました。双方の理解が深まったと思います。また、鳥取で多彩な国際交流活動に参加して、たくさんの国の人たちと会い、多文化共生に対してさらなる理解が深まりました。

(3) 終わりに

日本は先進国ですから、特に経済危機に対し、豊富な経験と方法を蓄積していて中国は学ぶところが多いと思います。権利、責任と義務を兼ね備えた地方自治体の行政体制は地方の経済発展に制度の基礎を打ち立てることができました。開放、発達した市場の経済体制、整った法律の制度は経済発展のために必要条件を提供しました。公務員の制度も経済社会の発展のために効率のよいサービスを提供しています。鳥取県は強力で中小企業の発展を促進して、産官学連携を実施して、新しい事業の展開を図る産業戦略の構想は、吉林省の発展にもつながるものと考えます。

文化が国を作り、戦略実施が日本を大国の行列に並ばせました。絶えず製品と資本を提供すると同時に、政府から積極的に助けることにより、日本の産業発展は迅速で、より強い国際競争力を備えました。また、政府と民間は伝統文化の保護に全力を尽くし、同じく国家の実力を強くしていきました。

革新は日本の継続的な発展の動力源です。工業製品の研究、開発、設計にしても芸術作品の創造に、新しい意識を求めます。このことによってすべて日本の工業の製品はより強い競争力が高められ、同じく芸術品も人を感動させる魅力を備えました。

各方面における人材育成の構造が、日本経済力の基礎です。各種学校に関わらず、それぞれの企業の人材育成について、全力を尽くしたので、人材が長期にわたり、活用できると思います。つまり、個人にとって、学ぶのは一生の任務です。すべての団体について、学習と育成訓練は、また仕事の主要な内容の1つです。

現在、環日本海経済圏諸国の経済構造が調整されています。中国経済の高速発展と東北工業基地の振興に従って、この地区の経済協力も新しいチャンスを迎えています。日本の山陰地方と中国東北地方の経済協力は巨大な発展の可能性を持っています。吉林省と鳥取県が産業構造において共通するものが多く、電子、自動車、農業などの方面でも一定の補完性を持ちます。このために、双方絶えず新機軸を打ち出し、交流の領域をいっそう広く開拓して、協力する範囲と規模を拡大したいと思います。

最後に、研修にご尽力いただいた鳥取県商工労働部産業振興戦略総室と経済雇用政策総室、文化観光局交流推進課、国際交流財団の皆様にご心より感謝申し上げます。特に、研修中に商工労働部の門前部長と岡村総室長、木村総室長と交流推進課山本課長と中林チ-ム長、野口チ-ム長、吉川チ-ム長、草野さん、山下さん、井田さん、坂本さん、尾崎さんなど、国際交流財団の加賀田事務局長と大熊さんなど、大変お世話になりました。また、文化観光局交流推進課の友達も私に多くの関心と助けをくれました。また、鳥取県と吉林省、日本と中国の交流がますます盛んになっていくこと、両国の国民がいつまでも幸せに生活することをお祈りします。

私も帰国した後も、両省県の交流促進に尽力したいと思います。鳥取県と吉林省の交流が深まること、お互いに協力して更なる交流成果が出ることを期待しています。

1 研修員プロフィール



氏 名 朴プルン（パク プルン）
 年 齢 28歳
 国 籍 大韓民国
 出 身 江原道 春川市
 研修分野 環境政策

2 研修機関の概要

機関名	鳥取県生活環境部 鳥取県東部総合事務所生活環境局	
代表者	鳥取県生活環境部長 鳥取県東部総合事務所生活環境局長	石田 耕太郎 伊井野 孝一
指導者	鳥取県生活環境部環境立県推進課長 鳥取県生活環境部水・大気環境課長 鳥取県生活環境部衛生環境研究所長 鳥取県生活環境部循環型社会推進課長 鳥取県生活環境部くらしの安心推進課長 鳥取県生活環境部消費生活センター所長 鳥取県生活環境部景観まちづくり課長 鳥取県生活環境部公園自然課長 鳥取県生活環境部住宅政策課長 鳥取県東部総合事務所生活環境局環境・循環推進課長 鳥取県東部総合事務所生活環境局生活安全課長	寺坂 和利 田倉 恭一 三木 文貴 亀井 雅議 橋本 賢生 山根 弘和 小倉 誠一 長谷川 誠 長谷川 明史 福田 一雄 山口 博

3 研修経過

月 日	研 修 内 容
H20. 05.18.	渡日(成田空港)

05.21. - 06.18.	日本語研修(JIAM)
06.24. - 07.10.	環境立県推進課研修
07.11. - 08.08.	水・大気環境課研修
08.11. - 09.12.	衛生環境研究所研修
09.16. - 09.18.	環境立県推進課研修
09.22. - 10.20.	循環型社会推進課研修
10.16. - 10.17.	秋季研修(CLAIR)
10.21. - 11.10.	景観まちづくり課研修
11.11. - 11.13.	環境立県推進課研修
11.17. - 11.21.	東部総合事務所生活環境局研修
11.25. - 12.10.	環境立県推進課研修
12.11. - 12.26.	くらしの安心推進課研修
H21. 01.05. - 01.09.	住宅政策課研修
01.12. - 01.30.	消費生活センター研修
02.02. - 02.20.	公園自然課研修
02.20. - 03.19.	環境立県推進課研修
03.20.	帰国

4 専門研修

研修生として日本に来て生活しながら、TVニュースやCMなどで「エコ」、「省エネ」、「環境にやさしい」、「CO₂削減」といった言葉が、まるで流行りことばのように繰り返して出てきていた。それほど、日本で「環境問題」というのは日常生活でまで重要なものとなっていると感じた。

さらに今年(2008年)は、京都議定書で定められた温室効果ガス削減目標の第一約束期間が始まる年であり、また、今年開催された「2008 北海道洞爺湖サミット」では地球温暖化問題が主な議題として取り上げられ、日本国内で地球温暖化を始めとする環境問題への認識がいっそう高まった。

このような流れの中で、鳥取県は、家庭、企業、行政が自ら環境配慮活動に積極的に取り組むことにより環境を重視した地域づくり「環境立県」を目指している。今度の研修では、鳥取県のような政策について勉強することになり、その内容と成果を次のように報告する。

(1) 各主体間協力による環境立県の推進

鳥取県は、「鳥取県環境の保全及び創造に関する基本条例」の規定に基づく「鳥取県環境基本計画」を策定し、計画の「目標」、「施策の方向」に沿って環境施策を進めてきている。その実行については、住民、事業者、行政の各主体において実行計画(アクションプログラム)を策定し、共通の認識のもとで連携と協働による取組を推進している。さらに、その実目標と施策は鳥取県庁の ISO14001 と連動させ、計画 実行 点検 見直しにより進行管理を行う。

また、地球温暖化防止や循環型社会づくりなど、県民との協働により環境活動を一層推進する「環境先進県に向けた次世代プログラム」を策定し、日常生活の中で実践できる、具体的な取組みをわかりやすく提案している。

(2) TEAS(Tottori prefecture Environmental Audit and Scheme)

TEAS は、県内の企業、学校及び家庭等の環境配慮活動に対し、県が一定の基準を設け、計画(Plan) 実行(Do) 点検(Check) 見直し(Act)サイクルによる環境配慮活動を審査登録及び公表する、ISO14001 の簡易版ともいえる鳥取県の独自の環境マネジメントシステムである。TEAS は ISO14001 (審査費用 100 万円程度) に比べ少ない費用 (各組織の負担は最大でも 10 万円) と労力で登録ができ、中小規模の組織でも手軽に始めることができるのが特徴である。

① 種

種はもともと ISO14001 への移行を目指す企業に対して、その練習台として用意された制度であり、ISO14001 に近い、高度な取り組みが求められている。取得しているのは比較的、大規模な企業である。

② 種

種に比べて簡易なものであるが、種同様、審査員による現地審査が実施され、きちんとしたシステム作りが求められる。種は中小規模の組織や、高等学校、公共体育施設が登録している。高等学校では、地域の清掃活動への参加や、生徒のマイバック作成などを行うところがあり、公共体育施設では地域住民も参加できる環境研修会の開催等を行っている。また、企業では環境配慮製品の販売増など本来の業務に TEAS の仕組みを取り入れ活動するなど各組織で工夫した取組が行われている。

③ 種

種は書類審査だけで登録できる簡易なものであり、小中学校、個人経営の事業所 (理髪店など) が登録している。小中学校では、環境教育の推進や、地域の清掃活動への参加などを行っているところがある。また、個人経営の事業所では、節電やごみの削減等に力を入れている企業が多い。

(3) 地球温暖化防止

日本の各地方公共団体は、京都議定書の温室効果ガス 6%削減目標の達成に向け、様々な施策を実施している。鳥取県も、この目標を達成するため、温暖化対策の専門組織として地球温暖化対策室を設置し、各市町村及び県民等との連携を通じて、様々な取り組みを実施するとともに、住民、事業者の活動の促進のための情報提供等を行っている。

さらに、このような県における地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため、「鳥取県地球温暖化対策条例」の制定も進めている。

① 自然エネルギーの導入

石油や石炭などの化石燃料が、ほとんどを輸入に依存し、枯渇の不安をかかえているのにひきかえ、自然エネルギーは地域で自給でき、枯渇の心配がない持続的利用可能な再生エネルギーである。また、化石燃料は燃焼によって CO₂ を発生するが、自然エネルギーは自然の森林が吸収できる炭素循環の枠内でその総量を増加させないため、地球温暖化防止に有効な資源としてその導入が進んでいる。

▪ 風力発電

県内では、県が鳥取放牧場に設置した風車 3 基及び、北栄町が設置した 9 基、日本風力開発(株)が設置した 27 基など、総 41 基が稼働している。

その中でも、北栄町の「北条砂丘風力発電所」は、自治体直営では日本最大規模(1,500 kW 風車 9 基)で、年間 11,243 t (平成 20 年基準)の CO₂ 削減を達成している。民間や他自治体のモデルケースとして、また地域の環境問題の普及啓発のシンボルとして、注目を集めている。

▪ 木質バイオマス

県内では、チップやペレットの形で、ストーブやボイラーの原料として導入が進んでいる。県も率先し、県有施設にペレットストーブ等を導入している。

特に、西部総合事務所に設置された冷暖房用ボイラー施設は、ペレットボイラーとしては全国最大級のものである。重油式ボイラーに更新した場合と比べると二酸化炭素排出量(電気使用により)が約 1/3 になり、年間約 90 トンの二酸化炭素削減(139 トン 49 トン)の効果が出ている。また、化石燃料のように海外から輸入しなくても、県内の森林で十分な量の原料を確保できるため、価格が安定的だという長所がある。

▪ バイオディーゼル(BDF、軽油の代替燃料)

バイオディーゼル燃料(BDF)とは、植物性油(採種油、大豆油など)を精製した、ディーゼルエンジンに使用できる燃料である。特に、従来可燃ごみとして焼却処分されていた使用済みの天ぷら油を、地元の住民・食堂などの協力により回収し、

それを原料としてのバイオディーゼル製造が行われている。

県は、率先して、県庁公用バス、道路維持補修車両、農業試験場トラクターなどに導入しており、鳥取市の100円バス、境港市のゴミ回収車両など、各市町村もその利用に取り組んでいる。民間でも、鳥取環境大学(スクールバス)や、温泉、福祉センター(送迎バス)など、自発的に精製・利用する所が少ない。

② アイドリングストップ

県は、平成16年「駐車時等エンジン停止の推進に関する条例」を制定、平成17年から施行し、誰でも身近に取り組むことができる「アイドリングストップ運動」を県民運動として展開している。「アイドリングストップ」とは、駐車時や信号待ちの時など自動車が走っていない時にエンジンを止めて、無駄に燃料を消費しないことで、自動車を運転する人なら簡単に誰でも実践できる省エネルギー、地球温暖化防止への取組である。また、この運動に積極的に取り組む企業・団体と個人を知事が認定する制度を設けている。

③ レジ袋削減

「容器包装リサイクル法」改正により(平成19年4月施行)、レジ袋の削減に対する社会的関心が向上し、全国各地で様々な取組が進展している。その中、鳥取県では、消費者・事業者及び行政が連携し、レジ袋の削減に向けた方策を検討協議し、各種の取組を通じて地球温暖化防止に貢献することを目的とする「ノーレジ袋推進協議会」が県内3地域(東部、中部、西部)で設立(2008年4月)された。参加団体は、スーパー、コンビニ、百貨店、県連合婦人会、商工会議所、とっとり環境ネットワーク、市町村、県などの105団体で、このように多様な事業者が参加しているのは、全国的にも珍しい。

協議会は、平成20年11月10日(月)に鳥取県内統一の「ノーレジ袋デー」実施を始め、平成21年1月から3月までの毎月10日を「ノーレジ袋デー」としてノーレジ袋推進に取り組むこととした。なお、今後の「レジ袋無料配布中止」(有料化)に向けての検討も行なっているところである。

(4) 循環型社会の確立

大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済生活を続けた結果、最終処分場の不足や有害物質の環境への影響などが問題になるとともに、石油や鉄などの資源価格が急騰するなど、将来的な資源の枯渇も懸念されている。

このような問題を克服し、持続可能な発展をするため、経済活動における資源やエネルギーの損失を無くし、「消費->ごみの生成、汚染物質の排出」の経済活動の既存

の流れを「資源の利用->結果的に次の活用資源を生成」の「循環型社会」システムに再構築することが必要となっている。

① 4R 推進

日本では平成 12 年「循環型社会形成推進基本法」において、(1)リデュース (Reduce) (2)リユース(Reuse) (3)リサイクル(Recycle)の 3R の考え方が導入された。鳥取県は、特に、(4)リフューズ(Refuse)を合わせ、4 R を推進し、4 R の理念を広く県民や企業に浸透させるべく、各市町村や市民団体などと連携して様々に取組ん

Reduce ・ 詰め替え商品を使用
廃棄物の発生抑制 ・ 食べ残しを出さない

Reuse ・ 再使用容器を使用
再使用 ・ リサイクルショップを利用

Recycle ・ ゴミをきちんと分別
原料として再利用 ・ 廃食用油の BDF 化

Refuse ・ マイバックやマイ箸等を使用
不要の物を辞退 ・ 過剰包装を辞退

- ・ 県の普及・啓発事業(例)：市町村・消費者・事業者と連携による推進
マイバック普及促進事業、ゴミの発生抑制・減量化推進啓発事業、再使用食器普及啓発事業、グリーン購入とっとりネット(グリーン購入を広く普及する目的で、消費者・企業・行政等で組織)の運営支援など
- ・ 市町村の重要施策(例)

容器包装プラスチックの資源化：いなばエコ・リサイクルセンター

東部広域行政管理組合と容器包装リサイクル協会から委託を受け、家庭から排出されるプラスチック廃棄物から異物を除去し圧縮梱包する工場と、プラスチックをさらに分別し PP・PE のペレットをつくる再生処理プラントを運営。

溶融スラグの再生利用：西部広域エコスラグセンター

西部広域行政管理組合が運営している焼却灰溶融固化施設であり、西部地域のごみ焼却残さ、不燃物残さ、し尿汚泥焼却残さ、公共下水道汚泥焼却残さを処理対象とする。ここで発生した溶融スラグの中で、JIS 規格で定めた品質等を満たしたものについては、「鳥取県溶融スラグ使用基準」に従って建設工事等で利用されている。

② 廃棄物の適正処理

廃棄物は、「廃棄物処理法」によって「一般廃棄物」と「産業廃棄物」に区分される。

一般廃棄物については各市町村が、産業廃棄物については排出した事業者が、適正に処理する責任をもっている。県は、市町村が設置する施設に対する届出の受理や産業廃棄物処理業の許可などを行なっている。

- ・ 一般廃棄物の処理

県内、市町村及び広域行政管理取組が保有する中間処理施設は、焼却施設 15 施設、資源化施設 3 施設、粗大ごみ施設 1 施設で、計 19 施設であり、これらの施設で廃棄物が分別処理・減量され、最終的に埋立または再資源化される。最終処分場(埋立)施設は、東部・中部・西部に各 1 施設である。

・ 産業廃棄物の処理

鳥取県では、県内で発生する産業廃棄物の 60%以上を県外施設に依存しており、排出削減・再生利用の推進による最終処分量の削減とともに、県内におけるリサイクル施設及び最終処分場の確保が求められている。特に、委託処理可能な管理型最終処分場が県内に一つもなく(安定型最終処分場は 7 箇所)、県内の産業活動への支障や不適正処理による環境汚染が懸念される状況である。

(5) 水・大気保全

① 水環境保全

県は、「水質汚濁防止法」に基づき、鳥取県内の公共用水域(河川・湖沼・海域及び地下水)における健康項目、生活環境項目の水質検査を実施している。毎年、公共水域及び地下水の水質の測定計画を作成し、測定を行ってその結果を公表することとなっている。

特に、県内の三大湖沼(湖山池、東郷池、中海)に対しては、それぞれ「湖山池水質管理計画」、「東郷池水質管理計画」、「中海に係る湖沼水質保全計画」を策定し、下水道の整備、しゅんせつなどの水質保全事業や、工場・家庭・畜産業などからの排水の規制などとともに、関連調査研究や環境学習なども行っている。

② 大気環境保全

大気に関しては、「大気汚染防止法」に基き、工場や事業場から排出又または飛散する大気汚染物質(ばい煙、揮発性有機化合物(VOC)、有害大気汚染物質、粉じん(石綿など))について、物質の種類ごと、施設の種類・規模ごとに規制を行っている。

(6) まちづくり

まちづくりとは、地域社会に存在する資源を基礎で、多様な主体が連帯・協力して、身近な居住環境を漸進的に改善し、まちの活力と魅力を高め、「生活質の向上」を実現するための一連の持続的な活動を言う。

次のように県内の代表的なまちづくりの例を挙げる。

まちづくり交付金事業(国土交通省)：伯耆町溝口駅周辺地区

高齢化と旧溝口町役場の分庁舎化により溝口地区の活気が急速に失われてい

く中、2005年国交省が創設したまちづくり交付金事業をきっかけに、地域住民と行政が一体となって事業を推進した。

この事業により、駅周辺の約30,000㎡が整備され、駅前通りの幅を約3mから、ロータリーを付加した二車線約7mに拡幅した。また、駅舎を改装しギャラリーなどを併設した多目的スペース「地域交流センター」、駅の横に親子で楽しめる公園、飲食店などの共同店舗と障害者の運営するベーカリーなどを新設し、駅前の雰囲気は明るく開放的に生まれ変わった。

街なみ環境整備事業(国土交通省)：鳥取市鹿野地区

鹿野町には、京格子の町屋や白壁に腰板といった苗字帯刀身分の屋敷など城下町としての地域の歴史や文化をのこしている。そのような町の特性を生かし、「鹿野祭り」に似合う和風の街並み景観の整備・保存事業を行っている。地域の住民と行政が協力し、住宅などの私的な空間を整備は住民自らが、道路や水路などの公的な空間を整備は行政が担当して行っている。

(7) BSE(牛海綿状脳症)対策

日本では、平成13年(2001)BSE感染牛が確認され、同年度「牛海綿状脳症対策特別措置法」が規定されて以降、公衆衛生及び家畜衛生の観点から各種対策が強化されてきた。その具体的な対策としては、飼料制限や、SRM(特定危険部位)除去、BSE発生国から生体牛及び食肉等や肉骨粉の輸入を禁止、と畜場でBSE検査を実施などがある。このような対策を実施してきて、平成17年(2005年)食品安全委員会がリスク評価を行った結果、全頭を検査した場合も21ヶ月齢以上の牛のみの検査に変更した場合も、食肉のリスクはどちらも「無視できる～非常に低い」と推定された。この結果によって、国は、全頭検査を緩和して生後20ヶ月以下の牛をBSE検査対象から除外することとしているが、鳥取県は、国の全頭検査を取りやめるための科学的根拠・科学的知見に基づいた説明が不十分であること、及び生後20ヶ月以下の検査対象牛が少ないことから、当面は全頭検査の体制を維持することとしている。

(8) 専門研修の成果

日本は京都議定書により、すでに温室効果ガス削減義務の対象国となっており、「温室効果ガスを1990年比6%削減」という目標の達成に向けて各方面から取り組みが始まっている。韓国も温室効果ガスの削減義務対象国となることが予想され、いち早くこの問題に取り組んでいる日本の成功例や失敗例を学ぶことは韓国での取り組みを進める上で有効であると感じた。

また、廃棄物処理に関して、焼却型を超え、溶融段階まで進んだ日本の廃棄物処理

の現状を視察できた。韓国では廃棄物処理について一般的に直接埋立という方法がとられるが、埋め立て場の確保や環境汚染など、さまざまな問題が発生している。日本の廃棄物減量及び処理システムは韓国にも取り入れるべき点は多いと感じた。

この他にも、韓国にはその概念が定着していないまちづくりや、BSE の全頭検査等安心できる日本の食品衛生行政についての勉強などは、現地での研修でなければ得られない貴重な成果だった。また、環境分野から食品衛生、住宅政策、消費生活相談などまで、幅広く様々な分野を勉強することができ、ここから得られた知識と経験は帰国後の公務員の仕事においてよい資源になると思う。

5 終わりに

鳥取での9ヶ月間、大山や鳥取砂丘など鳥取ならではの美しい自然環境や、温泉、松葉ガニ・二十世紀梨等の食べ物などを満喫し、しゃんしゃん祭りやドラゴンカヌーなど色々な経験もでき、楽しい生活を過ごした。また、週末や休日には、広島、京都、大阪、奈良など県外旅行にも行って来た。

ホームシックにかからず、このように研修生活を送ることができたもう一つ大きな理由は、各研修先での職員の皆さんから、もっと多くまた詳しく教えてあげようとした誠意と、外国人の研修生として不便なところはないよう暖かい心遣いをいただいたからである。鳥取県と国際交流財団の職員の皆様及び、その他にも研修と日常生活においてお世話になったすべての方々に感謝を申し上げる。

韓國江原道行政實務研修生
(韓國江原道)

1 研修員プロフィール



氏 名 崔豪洵(チェ ホ スン)
年 齢 41歳
国 籍 大韓民国
出 身 春川市 僚船洞
研修分野 企業誘致

2 研修機関の概要

機関名 鳥取県 商工労働部 経済・雇用政策総室, 産業振興戦略総室
所在地 鳥取市 東町1丁目220
代表者 鳥取県 商工労働部 門前部長, 経済雇用政策総室 木村総室長、
産業振興戦略総室 岡村総室長
担当者 鳥取県 商工労働部 経済雇用政策総室 山下主幹、
通商物流チーム 坂本主幹、
産業振興戦略総室 草野主幹、
企業立地推進チーム 上野主幹、
新事業開発チーム 鈴木主幹、
産業開発チーム 山根主幹、
雇用人材確保チーム 小林主幹

3 研修経過

日付	研修内容
2008.4.4(金)	鳥取 到着(米子空港)
4.7(月)	職員あいさつ, 外国人登録(鳥取市 市民課), 銀行口座開設(山陰合同銀行) 鳥取県国際交流財団オリエンテーション
4.9(水)	県庁周辺案内及びオリエンテーション
4.11(金)	新任韓国国際交流員(2人) 到着及びあいさつ
4.14(月)	知事面接及び地元新聞社インタビュー
4.15(火)	鳥取県国際交流財団訪問オリエンテーション

4.18(金)	江原道地元新聞社記者団 鳥取 訪問
4.19(土)	同記者団 境港 視察
4.21(月)	交流推進課とのあいさつ会
4.23(水)	文化観光局とのあいさつ会
5.21(水)	商工労働部あいさつ及び面談
5.22(木)	日本海新聞社インタビュー(日本海新聞)
5.23(金)	鳥取県 江原道友好協会歓迎会
5.27(火)	第 9 回日韓水産セミナー江原道代表団随行
5.28(水)	第 9 回日韓水産セミナー
6. 2(月)	商工労働部あいさつ及びオリエンテーション 若者就業支援センター開所式参加
6. 4(水)	通商物流チーム歓迎会
6. 9(月)	境港 見学
6.17(火)	鳥取港 見学
6.18(水)	境港 ポートセールス及び大阪港施設見学
~ 6.19(木)	
6.26(木)	東海港 - 境港 航路開設協議のための東海市代表団随行
6.27(金)	日本食品産業の韓国進出関連セミナー参加
7. 3(木)	第 25 回 鳥取 障害者機能競技大会参観(倉吉市) 20 世紀梨記念館参観(倉吉市)
7.17(木)	健康検診
7.18(金)	Panstar クルーズ見学
7.23(水)	鳥取 地域特化産業関連機関, 企業訪問
~ 7.24(木)	
8. 2(土)	WIDE WIDE ワールドプログラム参加(鳥取県国際交流財団)
8. 4(月)	しゃんしゃん祭り練習
~ 8. 7(木)	
8. 8(金)	鳥取大学工学部敷設電子ディスプレイ研究センター開設関連協約式
8. 9(土)	参加
8.20(水)	第 44 回 鳥取しゃんしゃん祭り(かさ踊り) 参加
8.27(水)	西部地区第 1 回 鳥取 経済雇用振興キャビネット会議参加
9.20(土)	第 14 回環日本海(東海)拠点都市会議参加
10. 7(火)	北朝鮮による日本人拉致問題告発写真展参観
10.22(水)	ロシア食材セミナー参加
10.27(月)	日韓制度比較シンポジウム参加
11. 4(火)	鳥取 中部地域施設見学

11.11(火)	鳥取 企業誘致政策及び戦略に対するオリエンテーション
~ 11.13(木)	長野県ものづくり現場見学
11.17(月)	
11.18(火)	鳥取 雇用訓練センター見学
11.28(金)	企業訪問(旭食品 等)
12. 1(月)	サントリー(株) 貨物トレーラー運行のための道路状態点検
12. 3(水)	江原発展研究院長 鳥取 訪問随行
12.13(土)	鳥取 地域活性化シンポジウム参加
12.14(日)	江原道庁と 鳥取県庁のサッカー交流会
2009.1. 4(日)	第4回 鳥取 韓国語コンテスト(話してみよう韓国語) 参加
1. 5(月)	日本海ケーブルテレビインタビュー
1.19(月)	鳥取 雇用及び人材確保対策に関するオリエンテーション
1.22(木)	鳥取 新事業開拓対策に対するオリエンテーション
1.26(月)	甲陽ケミカル(株)の工場増設に伴う協定書の調印式参加
1.28(水)	マルチ(株)鳥取県進出記念講演会参加
1.29(木)	地域産業の担い手育成プロジェクト成果普及発表会参加
~ 1.30(金)	展示会“第10回国際電子部品商談展 ELE TRADE”視察

4 研修報告

(1) 始めに

鳥取県の優秀な行政施策の事例を検討して江原道に組込または導入の可能な政策が何かを探し出すのが当初研修の目的だったと判断されるが、

- これは国家と地方の役割の違いなど両国の地方自治制度側面の差異、行政が対象とする行政客体の性格の違いなど多くの部分でお互いに異なっている行政環境を持っているという点を勘案する時、違いの可能性が大きいと判断され、
- 個人的に言語的制約要因によって綿密に研究するのが本当に難しかった。

だからこれに対する部分はアイデア次元で簡単に紹介し、本研修報告では1年間研修部署で勤務研修と出張研修を通じて見たこと、聞いたこと、感じたことの中で韓国と比べて違うところを中心に作成した。

(2) 日本生活で感じた点

職場(行政)文化

- ネクタイスーツ姿で自転車及び徒歩出退勤が一般的，マイカー出勤は極めて一部
- 朝ごとに問い合わせ(チーム別主要日程伝達) またはあいさつの言葉演習(全員起立進行)
- 勤務時間の中でインターネットサーフィンなど業務の外の個人用事を見る事例がほとんどなし
- コーヒータイムなどのための離席なし(休憩室がなし)
- お昼は普通は注文お弁当で，したがって県庁周辺にレストラン街がない
- 部署間業務協力は電話より対面協議が多い
- 勤務時間終了後の勤務チェックシステムは江原道と同様，概ね 6-7 時の中で退勤
- 組織内上下関係において韓国よりは担当者の意見を尊重する雰囲気のような
- 公務員の出張費はできるだけ節減するため 1 回の出張の時，最大限多いスケジュールを消化することができるように出張計画をたて，自分のお金で支払ってから後で精算，食費がなし
- 各種行事には参加した主要人物のあいさつの言葉手順が必ずあって，時間も長い方だが，普通原稿なしに話すのが印象的
- 外国から代表団が訪問する時，両国の国旗を掲げて，玄関に整列して拍手で歓迎する慣例がある。

飲み会文化

- 主に部所長たちがさかずきを持って席を移して，職員たちに親しみを表示
- 3~4 日前に参加可否を確認，名簿確定，1 人当り所要額を判断して割り勘

職場内 各種什器，OA システム，便宜施設など

- 勤勉節約が行政に反映された結果か，予算の効率的な執行，または不足のためか，各種什物や便宜施設が古かった。

住居環境など生活全般

- 日本人の遵法精神と安全意識が生活全般に根付いている。
- 門や，ガラス窓一つも万が一に備えた安全装置が用意されている。
- 交通信号違反，ごみ無断投棄などの基礎秩序違反事例が極めて少ない。
- ごみは 10 種に仕分け分離処理する。家電製品の処理費用は高い。
- 行政手続きが複雑で時間が長くなる 外国人登録証(3週間) 銀行現金カード発行(1週間)，インターネット開設(3週間)

- 県内地域別に多様な祭りがあるが、大部分が伝統的祭りであり、住民たちの自発的な参加で成り立ち、直接参加して見た 鳥取市のしゃんしゃん祭の場合は参加団体別ひと月以上演習後にコンテスト形式で行事を進行することで、所属感と構成するメンバーの連帯感を厚くするきっかけになっている。

放送,新聞

- 日本ニュースの特徴は国内政治よりは事件事故と国際動向にもっとも大きい比重をおく。
- 国内の政治経済と関連されたニュースも批評批判よりは事実報道を主として編成。
- 国際動向は主にアメリカ, 中国, 韓国に対するのが多く, 最近は中国に対する関心も高まっている。
- 人命事故と関連したニュースがトップを飾る場合が多いのは, 発生率が低くて, 再び起こさないようにしようとする意図もある。

日本人に対する印象

- 親切で, 節制力が強い. 事務室内でまたは通りで声を高める場合がなし
- とてもささいな部分まで相手の立場で気配りしようとする努力が見える。

(3) 研修内容

(3) - 1 出張訪問研修

若者就業支援センター開所式参加(鳥取市)

- 青年失業の解消対策の一環で就業相談, 求人情報提供などのためのスペースで, 求職者と求人者との橋渡しの役割をして, インターネットルーム, 相談室, 就業情報の閲覧室などを取り揃えている。

境港 見物(境港市)

- 東海港-境港の国際定期航路の開設のための準備状況及び国際貿易港としての 境港の施設などを確認するため, 境港市 産業環境部通商課長他多くの方の助けがあった。
- 境港は東海港と同じく大規模背後工業団地や背後消費都市が少なく, 鳥取県及び島根県輸出入貨物と, 同地域から日本各地への海上物流輸送基地としての役目を果たし, 主要取り扱い貨物はバルク貨物と, 木材, 商工貨物等であり, 輸出よりは東北アジア地域からの輸入貨物の比重が大きい。
- 港湾規模に比べて国際コンテナ専用ターミナルを取り揃えているのは, 既に韓国や

中国とを連結する定期コンテナ航路が開設されて港湾の発展可能性がある。

- 個人的な観点で見た 境港と東海港航路開設可能性は先に貨物の側面で、境港は小規模だがコンテナターミナルが揃っていて、東海港も専用埠頭ではないが中央雑貨埠頭でコンテナ貨物を処理することができるし、必要な時は施設補強が可能だと判断されるので処理能力は十分だと考える。しかし両港は大規模な背後生産団地と消費地がなくて現時点で直航路開設のための荷物量の確保は易しくないようだ。ただ、ウラジオストックとの連携航路として、TSR を通じる対ヨーロッパ輸出まで念頭に置く時、中古車の輸出入の需要など新規物流量の創出の可能性は十分だと思われる。これももうロシア航路が開設されている韓国と日本の既存港との競争も勘案しなければならない。
- 旅客需要は純粋移動旅客の需要、観光の需要、小貿易商の需要に区分して考えると、純粋移動旅客需要は両港の近隣の圏域の人口(江原道(150 万)、鳥取(60 万))、運航時間(18 時間)を勘案する時競争力がなくて、観光需要は船上観光と密接な関係があるので、船社のサービス水準と能力によって変わることもあり、現在は商品性があると判断されるが、法的な問題がある部分をどんなに解決するかと言うことがカギになるし、小貿易商の需要創出可否は運送費用と商品価格マージンの差額、関税制度、などと密接な関係があって、この場合釜山港を利用するのが小貿易商の立場から有利で、何より最近厳格になった通関手続きによって既存航路も小貿易商の需要が大きく減っている点で見ると難しいと思う。
- 以上のように市場与件は良くないと思われるので、背後生産団地造成や荷主、Fowarder に対するポートセールスが優先しなければならないように見えるし、旅客需要は観光需要に焦点を合わせて、法的制度的なアプローチを通じて独占供給のための事業権を確保する方案を慎重に検討してみる必要があると思う。

鳥取港 見学(鳥取市)

- 鳥取港は貿易港であるが、通関手続を 境港で代わりをするなど輸出入貨物はほとんどないし、境港は国際貿易港で、鳥取港は観光港で育成しようとするのが鳥取の港湾政策の結論だと思う。
- 現在 鳥取港には 700 台位のヨットと、漁港にはこちらの特産物であるカニの漁船が停泊している。

境港ポートセールス及び大阪港施設見学(大阪)

- 移動経路 : 大阪駅 鳥取県 関西本部 韓日中産業交流会
鳥取県 関西本部 大阪港埠頭公社 大阪港
- 2008 韓日中産業交流会 Symposium 参加、境港ポートセールス、大阪港施設見学など

- 2008 韓日中産業交流会 Symposium は "新しい時代に跳躍するための韓中日企業戦略" という主題, "韓中日環境分野協力方法" という副題で Fuji Xerox 小林 最高顧問と韓日中の大企業役員がパネルで参加して熱い討論をし, 最近の技術開発トレンドとイシューを確認することができる良い機会であり, 環境問題が先進国の市場支配力の強化の口実と手段になることもできるという気がした。
- 一方, 2008 日韓中産業交流会では日韓中三国の電気, 電子, 機械関連 322 業社が参加して自社の新技術と商品広報, パイヤーとの相談などをしたし, 私たち参加チームは展示ブースを回りながら 境港の航路広報などのポートセールス活動をした。
- 全体的に, ベンチャー企業の性格の会社で対日本売り口の開拓を目的に参加しており, 訪問説明は不要との反応が多いし, 運送に関する事項は Fowarder に委任している企業が大部分だった。対日本輸出をする中小企業の場合, 主に大阪 釜山 Ferry を利用して, 境港に対する情報は持っていなかった。
- 大阪港は国際コンテナ埠頭 10 敷地(共用埠頭 : 3 敷地), コンテナ航路 月 368 便, 年間コンテナ貨物取り扱い量 197 万 TEU, Ferry 埠頭 10 敷地(内港 8, 外港 2) Ferry 国際定期航路 上海(週 2 回) 釜山(週 7 回), Liner 埠頭 7 敷地などを取り揃えた国際貿易港であり, 現在船会社に賃貸運営しているコンテナ埠頭中一部を複合運送物流業者に賃貸して物流費用を下げる効率化方策とか, コンテナ埠頭の一部を多目的埠頭及び Ferry 埠頭で切り替えるなどの港湾改編方策を計画中である。
- 大阪港の港湾改編計画で見ると輸出輸入港の選択など荷物の流れを複合運送物流会社が決めているということが分かる。よって, ポートセールスの対象も荷主や船会社より複合運送物流会社に重点を置かなければならないと考えられる。また Ferry 埠頭の大型化は多様な娯楽施設を取り揃えて, 豊かな貨物積載空間を確保することができるように Ferry が大型化になっているという原因も理解できる。

日本食品産業の韓国進出に関するセミナー参加(米子市)

- "日本食品産業の韓国進出の可能性に対して"を主題に JETRO ソウル支部が主催したセミナーとして, 鳥取 関連公務員, 関連企業が参加したし, 主に現在韓国の政治状況及び政権の性格, 韓国の経済状況と強みや及び弱み, 韓国市場に進出する時留意しなければならない事項などに対する講義があった。
- 韓国の政治状況に対して比較的詳しく紹介し, 全体的な雰囲気は日本企業の韓国市場進出に友好的だと判断しているが, - ウォルマートの失敗事例など市場の閉鎖性も周知している。

第 25 回 鳥取県障害者技能競技大会参加及び 20 世紀なし記念館見物(倉吉市)

- 鳥取県 管内障害者 100 人余りがサービング, ワープロ, 単純組み立て作業など現実的に就業可能な分野で技能を競って, 競技参加者はもちろん, 審査委員, ボランテ

ィア皆が慎重な姿勢で大会に臨む姿が好ましかった。

- "20世紀梨記念館"は鳥取20世紀梨の品質の優秀性を強調するというよりは梨の博物館みたいな性格で、記念館を鳥取県に置くことで鳥取20世紀梨が日本梨を代表することを自然に広報する効果があると思われた。

Panstar クルーズ見学(境港市)

- 試験航海の性格の日程の中間寄着地として境港に停泊した14千トン最高速度22ノット、定員510人のクルーズ船の内部を見物した。最近リモデリングで清潔な状態が良好だったし、多様な便宜施設とプログラムが用意されており、客室は価格によって差があるが、快適な旅行を楽しむのに十分だった。ただ旅行商品としての競争力と需要がどの位かまたいくら特別な経験が可能なのかによって決まるので、高い運賃、高級化戦略でターゲットを確実にしてまず特別だという印象を与えることが重要だと思った。

鳥取県 地域特化産業の関連機関,企業訪問(鳥取市, 米子市)

- (財)鳥取産業振興機構(地方独立行政法人)鳥取産業技術センターは国及び鳥取県が出資した独立法人で企業経営支援及び技術相談などを主に担当している。
- (株)サカモトは地域特産物である80年~100年になった杉を加工,販売する企業で1957年に創業して家業で引き継いでいるし,中小企業にもかかわらず地域技術センターと連携,研究開発に多くの投資をしている。
- (株)谷口和紙もやっぱり日本伝統紙を利用した製品を生産販売する企業で和紙の文化を今に伝え,現代的で高級化された商品の開発販売を試みており,企業主は国際感覚と自己の哲学を持って企業を経営している。
- (株)オークはからすみを加工販売する企業で,この企業も家族経営企業である。現在,市場の多角化のために海外市場への進出(特に韓国)に関心を持っているし,徹底的な衛生管理が目立つ。上の3社はすべて企業主が自負心と自信を持って経営しているということを感じた。

鳥取大学工学部附属電子ディスプレイ研究センター開設の関連行約協約式参加(鳥取市)

- 鳥取県の地域特化事業である液晶分野の研究のために開設されたディスプレイ研究センターを紹介し,研究センター育成のためシャープ(株)等関連企業6社の共同努力及び利用に関する協約を締結して『技術と経営戦略に関する考察』という主題で産業能率大学のビジネス課程主任教授の講演があった。

西部地区第1回鳥取県経済雇用振興キャビネット会議参加(米子市)

- 経済雇用振興キャビネットは産業各分野の代表者たちと分野別の現状と問題点に関する意見交換を行い解決方を模索する目的で開催された会議であり拘束力はないが、県庁の施策に現場の声を反映する役目をしている。
- また予算反映という最終目標を持って進行している。

第 14 回環日本海（東海）拠点都市会議参加(米子市)

- 韓国と中国及び日本の環日本海（東海）沿岸の 15 都市の首長が参加して経済観光分野及び環境分野の都市間交流促進方策に対する討論を広げた。重要な関心事は韓中日定期航路の開設に関する事で、韓中日定期航路の開設及び定期航空路活性化などに関して共同努力するという合意に達し、具体的な協力方案など実践方策が論議されることができずに、宣言的合意に止めた点は惜しい部分。

ロシア食材セミナー参加(倉吉市)

- 在ウラジオストックの日本領事館の専属賄いの "ウラジオストックへの日本食品輸出可能性" に対する講義があったが、ロシア人の食習慣と日本食品に対する好感度などに対する内容であった。最近食品安全事故などの影響で日本食品の人気のさらになくなっていて、高価に販売されているという事実は示唆するところがあった。
- 同講師は現地 TV の料理プログラムに出演していて、これを通じて鳥取県の農特産品を無理がなく現地に広報できる効果が大きいと判断でき、ベンチマーキングが必要な事業だと見える。

日韓労働委員会制度比較シンポジウム参加(鳥取市)

- 主題は日韓労働委員会の制度の現状と課題に関する事であり、お互いに違う労働環境を持っていた両国の制度を理解してベンチマーキングしようとする試みの一環である。

鳥取県 中部地域施設見学(倉吉市など)

- 中国庭園，東郷梨選果場，大山酪農協同組合など 鳥取中部地域の施設及び名所に対し鳥取県勤務の国際交流員及び関連公務員の理解度を高めることで，外部訪問者に対する広報力を強化するものである。

長野県ものづくり現場見学(名古屋市，長野県諏訪市)

- 名古屋市で開催された " 2008 長野ものづくり技術展 " 見学及び長野県諏訪市にあるセイコー-エプソン(株)，長野県工業技術総合センター，長野県諏訪市共同受注グループ，(株)共振などに対する、ものづくり現場見学があった。
- 長野県はものづくり産業活性化のために補助金の支援など多様な支援策を用意して、

ものづくり産業を集中育成しており、名古屋で開催された " 2008 長野ものづくり技術展"もその一環である。

- セイコ-エプソン(株)はものづくり塾を運営しながらたくみの養成のために努力して、一つ二つ製品に集中して世界最高を志向する企業戦略と、企業の伝統をいかしながら新しさを追い求める姿が印象的だったし、たくみの機能的価値評価を向上して社員それぞれの自己開発を督励する企業雰囲気、人材中心、現場中心の経営を感じることができた。
- 長野県工業技術総合センター(精密電子技術部門)、長野県中小企業振興センターは長野県が長野県内の創業、経営革新など高付加価値型企業の育成支援のために出資して設立した財団法人で、多様な分野の専門家を保有して県内各機関とネットワークを形成して60種以上の企業支援プログラムを準備して、企業支援及び企業環境の改善のための多様なサービスを提供していた。
- (株)共振"はものづくりを現場で感じることもできた有望中小企業として、自社保有新技術に対するプレゼンテーションをし、会社に自負心を持っている職員の言葉と行動が印象的であった。

鳥取県雇用訓練センター見学(鳥取市)

- 韓国の職業訓練院と似た性格で国家が運営している失業者再教育機関で青年層だけではなく、一時的 失業状態にあるすべての求職者を対象として企業とのネットワーク構築を通じて訓練の効率性と就業率(85% 位)を向上していた。

企業訪問(境港市 旭食品(株)、丸京製菓(株))

- 鳥取県が誘致した旭食品(株)と地元企業である丸京製菓(株)を訪問して、企業活動の隘路事項を聞き取りして鳥取県ができる支援事項の有無を確認した。

サントリー(株)貨物トレーラー運行の為の道路状態点検

- サントリー(株)工場の誘致とともに同会社の貨物の輸送のために拡幅・舗装した道路の走行安定性(トレーラーの中央線侵犯可否)の確認のためのことでサントリー(株)、貨物運送社(日本通運)、鳥取県関係者、江府町関係者など参加した。
- 企業誘致で終わるのではなく長続き可能な企業環境造成のための 鳥取県の事後管理システムが注目された。

鳥取県 地域活性化シンポジウム参加(鳥取市)

- “ 打って出る! イノベーションとっとり,地球規模を考える, IT による地域おこし ” という主題で産学研各分野の専門家が参加するシンポジウムに参加して 鳥取県が将来向かうべき方向に対して一緒に検討する時間を持った。

第 10 回 国際電子部品商談展(ELE TRADE) 視察

- 2009 年 1 月 28 日～30 日(3 日間) 東京国際展示場で開かれた家電、通信、カーエレクトロニクスなど電子部品及びデバイスの展示会に参加して鳥取県内の企業及び鳥取県が出品した展示ブースの運営管理及び訪問者の案内と、展示会場を観覧した。
- 鳥取県内の企業は (株)HRD, (株)田中製作所, ニッパ(株), V-TEC(株), アロー産業(株) など 5 企業が参加して、広報活動を行った。
- 世界景気不況にもかかわらず展示会の訪問者数が前年比 13%以上増加するなど盛況であったが、外国人の訪問者及び参加企業は前年比相当減少した。
- 鳥取県のブースを訪ねる訪問者は企業役員から、公務員、一般人まで多様だったし、鳥取県の電子電気液晶関連業体の現況の地図に関心を現す人が多かった。(韓国の企業の訪問者もいた)
- 今回の展示会を利用して鳥取県ではトライアル発注制度によって選定された LED 月響, LED スクエアライト, 携 - トルなど 3 企業の製品を集中広報して、鳥取県のコア産業及び育成支援産業を広報する一方鳥取県に対するアンケートの調査も実施した。
- 今回の展覧会の参加費用は場所賃貸費用 3 日間 250 万円, ブース賃貸取付費 1 回 175 万円などだった。

(3) - 2 専門研修

(3) - 2 - 1 企業誘致分野

企業誘致において江原道と違うところはコンタクトセンターを置いて日本のすべての企業を対象に常時接触を試みる企業誘致体系を維持しているということで体系は次のとおり。

コンタクトセンター : 誘致対象企業に対する意向を確認して, 訪問の可否確認 (年間 1,000 件目標)

鳥取のコンタクトセンターは契約職職員 2 人で構成されており, 企業立地チームと一緒に勤めている。

企業誘致担当職員 : コンタクトセンターの指令を受けて企業訪問相談, 誘致目標企業の条件提示に対する対応

市町村 : 誘致対象企業が要求する条件に対応するため, 市町村の関連情報を前もって確認して企業誘致担当職員に随時提供

また企業誘致担当部署で職員はもちろん, それ以外の県庁職員が企業誘致に専門的

に対応するようにするためにマニュアルを作って供覧するようにしているし、その主要内容は次のとおり

- 企業訪問前に前もって把握しなければならない情報，訪問企業到着の時の行動の要領，初対面時の状況別対応の要領，企業立地条件の説明する時の注意事項，分野別鳥取県の強み及び強調しなければならない事項，相手の反論の時の対処する要領，相談終了の時の行動の要領
- 同マニュアルは状況別でかなり具体的で詳細に作られている。

企業誘致または起業しやすい環境整備のため鳥取県の企業支援対策は大きく補助金制度，融資支援，減税制度に仕分けされることができる。補助金制度はまた新規企業の誘致の時に支援される補助金支援と，前に立地した企業の各種事業促進の補助金支援に仕分けされて，補助金の規模は企業誘致または事業の活性化による県内波及効果(税収及び雇用創出など)を勘案して決めて，税収増加などの波及効果を正確に算定するための計算を行って推定値を算出する。

(3) - 2 - 2 雇用促進及び人材確保

鳥取県は雇用目標を算定するために有効求人倍率という指標を利用している。有効求人倍率は雇おうとする企業の需要に就業希望者の人数の割合で，1以上なら企業の需要が就業希望者より多いということを意味し，就業希望者と雇用希望企業に対する情報は職業紹介所や人材バンクシステム，就業支援センターなどに登録された情報を基礎にしている。

鳥取県の雇用増大及び人材確保政策は類型別では"求人者と求職者との円滑な連結のためのリンクシステムの用意"，"企業が要求する人材の育成"，と分かれており，対象別では事業主対象事業と就業希望者とに仕分けされることができる。事業主対象事業では，"即戦力人材確保事業"，"人材ナビゲーター事業"，"鳥取 高度人材育成プラン"などと地域人材雇用企業主に対する奨励金支援制度を運営しており，求職者対象事業では"ビジネスステップ増強事業"，"テクニカルサポート育成事業"，"エンジニア育成事業"，"IT人材育成事業"などがあって，この場合には事業に参加する求職希望研修生に一定期間に奨励金を支給するなど経済的支援も並行している。

その他に就業促進事業で"UJI ターン就業フェア実施事業"，"企業見学会開催"など，両方の円滑なリンクのための"人材バンクシステム運営"，"企業説明会開催"，"地域大学と連携した職業紹介博覧会開催"，"無料職業紹介所運営"などの事業を実施

している。

(3) - 2 - 3 新事業開拓及び支援

急変する市場需要に対応して、競争力ある中小企業の育成のために推進している鳥取県の企業競争力強化プログラムでは、"経営革新計画承認制度"があって、この制度は新商品の開発のみならず、新しい方式のサービス、製造方法を含んだ新事業に対して、その具体性と事業期間を審査してそれを承認して、事業の成功のために低利融資、減税、補助金など支援する制度で、

その間の運営結果、この制度の経営革新目標値である "付加価値額 3%以上増加"を果たした企業が制度を利用しなかった一般企業に比べて 3 倍以上多いなど事業の効果が立証されている。

その他に、企業が開発した新商品を評価して広報を助力するトライアル発注制度、企業家の事業意欲を高めるために経営革新賞制度を運営しており、地域商品の販路の開拓のために大都市で企業の広報展などを開催している。

5 終わりに

1年という短くない期間中 "どのくらい充実した研修だったか" という疑問とともに研修は終わったが、もう研修中に感じた点を "江原道の行政にどのように組み合わせようか" というもう一つの課題が付与される時間だと思う。

研修期間中に鳥取県と江原道は違うところもたくさん見つけたが、一方、似ている部分も多いということを感じた。これはその間両国を行き来した多くの研修公務員たちが見て感じた点が不知不識の間に行政に反映されて、生活の中に染みこんだ結果と思う。

もう私もその人たちとともにそんなことをしなければならぬ時間になったようだ。これから頑張ります。

研 修 写 真



< 2008 長野ものづくり技術展 見学 名古屋市 >



< ものづくり現場見学 長野県 諏訪市 (株)共振 >



< 第 10 回 国際電子部品商談展 参加(東京) >



< 第 44 回 鳥取しゃんしゃん祭り(かさ踊り) 参加 >

県 費 留 学 生
(ブラジル)

1 留学生プロフィール



氏 名 ファビオ ユウジ ニシザカ
年 齢 26歳
国 籍 ブラジル
住 所 サンパウロ州サンベルナルドドカンポ市
研修科目 材料工学（セラミックス）

2 留学機関の概要

機関名 鳥取大学工学部
所在地 鳥取市湖山町南4丁目101
指導者 材料科学研究室教授 早川 元造

3 研究・活動経過

月 日	研 修 内 容
2008. 4.24	来日(東京着)
4.25	来県(鳥取着)
4.28	国際交流財団オリエンテーション
4.30	鳥取県庁交流推進課訪問・知事表敬
5. 1	鳥取大学工学部早川教授に挨拶、歓迎会に出席
5. 2	鳥取大学研究室のゼミ開始
5.17～18	「聖大祭御幸大祭」に参加
6. 7	鳥取大学のレガッタ大会に参加
6.19	ブラジル日本移民100周年について読売新聞の取材
6.21	「ブラジル日本移民100周年を祝う会」の記念式典でスピーチ
7. 6	「北栄町すいか、ながいも健康マラソン大会」に参加
7. 7	NHKの「ブラジル日本移民100周年スペシャル番組」の取材
7.21	「ブラジル日本移民百周年記念講演会」聴講
8. 3	鳥取・ブラジル友好協会・鳥取ブラジル会による歓迎会に出席

8. 7	「日本鉄鋼協会・日本金属学会 中国四国支部講演大会」に参加(高知県)
8. 9～10	「鳥取しゃんしゃん祭り」に鳥取大学の留学生連として参加
8.11～9. 3	夏休みを利用して、広島(平和記念資料館・平和記念公園など)・岡山・静岡(富士山)・東京・新潟・熊本・岐阜(「岐阜日伯協会」訪問)・愛知を旅行
10. 6	とりぎん文化会館でコンサート鑑賞
10.18	とりぎんバードスタジアムで鳥取ガイナレの試合を観戦
11.22	米子で民族芸能大会観覧
11.29	ブラジル日本移民百周年記念協会松尾執行委員長の懇親会に出席
12.19～21	栃木県日光市で全国のブラジル留学生とクリスマスパーティ
12.25	鳥取大学で研究の中間発表
2009. 1.29	F M山陰の番組に出演
2.23	倉吉市立久米中学校の国際理解授業でブラジルを紹介
3. 6	研修修了式・報告会
3. 8	鳥取・ブラジル友好協会による送別会に出席
3.11	離県
3.12	成田空港より帰国

4 留学報告

(1) はじめに

曾祖父母と祖父母の影響で、子供のころから日本の文化に慣れ親しんで来ました。日本料理を食べたり日本の音楽を聞いたり、家庭では日本とブラジルの生活が混在していました。日本語はサンベルナルド・ド・カンポ市の日本語学校で勉強し、ひらがな、カタカナと漢字も少し読めるようになりました。日本のアニメやドラマ、マンガなどを読むのも日本語の勉強になりました。

日系人として日本に留学することができるかと従兄弟から聞き、日本語の能力試験と鳥取県人会で面接を受け、県費留学生として来日が決まりました。

ブラジルではFEI 工科大学で材料工学を学びました。金属材料やプラスチック、セラミックスなどの特性と利用の分野です。日本でも金属材料についての研究を希望していたので、鳥取大学工学部機械工学科材料科学研究室に研究生として受け入れていた

だきました。

(2) 研究内容について

5月から鳥取大学工学部機械工学科材料科学研究室に研究生としてセラミックスの分野を学ぶ事になりました。

セラミックスは一般的には脆い物です。ジルコニアセラミックスはその脆さを克服することのできる唯一のセラミックです。このジルコニアセラミックスは宝飾や、フィルター、ナイフ、歯科学などに多く使われています。

この研究の目的はジルコニアセラミックスに起こる原子配列の変化を研究する事です。その変化はマルテンサイト変態と呼ばれています。このマルテンサイト変態が起こるとセラミックスの強度特性が変わります。このようなマルテンサイト変態がセラミックスの中で起こる事はとても珍しい現象です。そのため、むかしから研究されているセラミックスですが、まだ色々分からないところがあります。

その疑問の一つとして、ジルコニアセラミックスに外から力をかけるとマルテンサイト変態が起こり易くなりますが、それがどの程度影響するのかが解明されていません。そこで、それを実験で確かめることにしました。

実験の方法はこのようにしました：

- ・ ジルコニアセラミックスの試料(サンプル)をマルテンサイト変態が起こるまで冷やします。そのときの変態温度を調べます。(ここでは外から力を加えていません)
- ・ セラミックス試料に力を加えます。その時の変態温度を調べます。
- ・ 力をかけた時とそうでない時で変態温度が変化したら、その力はマルテンサイト変態と関係あると言えます。

セラミックスを冷やしながらかけるための装置を作りました。装置の図面はすべて SOLIDWORKS と呼ぶパソコンアプリケーションを使って描きました。

作成した実験装置は写真1で示しているものです。この装置では、力をかけながら(～50Kg)、液体窒素により銅でできた試料ホルダーを冷却して、それによってセラミックス試料を冷やします。

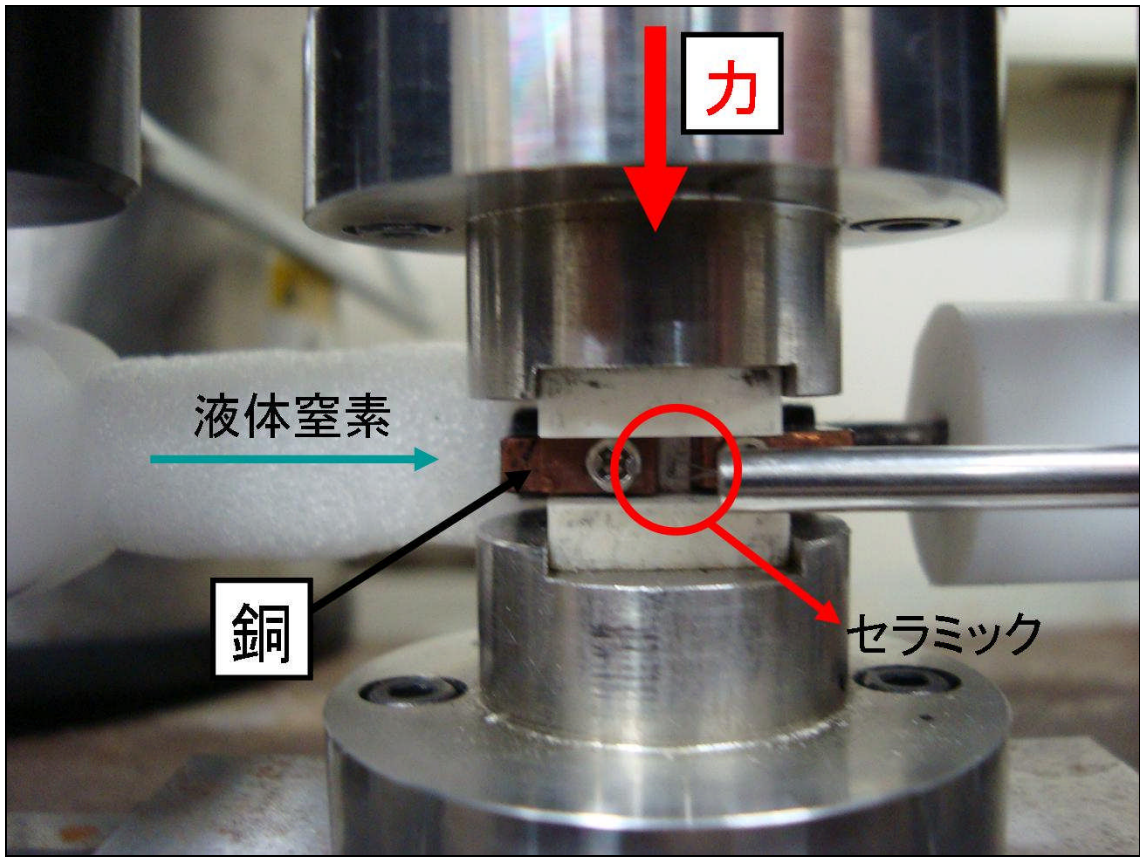


写真1 試料ホルダーの拡大写真

最初に力をかけずに実験をしました。その状態を写真2に示しています。また力をかけている状態を写真3に示しています。



写真2 力をかけていない状態



写真3 力をかけている状態

セラミックス試料の温度測定には温度センサーを使いました。マルテンサイト変態が起こると温度が上がります。そしてセラミックスが変態すると「ピシッ」と音が聞こえ

ます。その両方の方 法を使ってマルテンサイト変態を確かめ、そのときの温度を測定しました。

表1は力をかけない状態のマルテンサイト変態温度の測定結果です。表2は力をかけている状態です。実験中、たまにはセラミックスが変態して飛ぶことがありました。

表1 マルテンサイト変態温度（力をかけていない時）

変態温度（ ）	上昇温度
-15.7	+4.7
-25	+10
-23	+12
-27.7	試料が飛ぶ
-22.3	+14
-10.8	試料が飛ぶ
-29.9	+11.1
-21.9	+4
-19.4	+4
-25.8	+10.4
Average: -22.15	

表2 マルテンサイト変態温度（力をかけた時）

変態温度()	上昇温度
-32.8	+10
-25.8	+3.8
-26.1	+2.1
-29.1	+1
-28.8	+0.5
-28.3	+0.7
-20.1	+4
-15.8	+1.6
-25.3	+9
-23	+3.1
Average: -25.51	

力をかけた時とかけない時の変態温度を比較すると、力をかけたことによって少し変態温度が低下しているように見えます。つまり力がマルテンサイト変態に影響することがわかりました。しかし、この結果からだけでは決定的な結論はだせません。

今後は、もっと測定試料の数を増やして実験をしたり、別の方法を用いて実験を行うことで確認していく必要があります。

研究以外では研究室の学生の研究の話を聞いたり雑誌会というゼミにも参加したりして、色々な内容も学びました。私も雑誌会で発表しました。先生たちと研究テーマや他の内容についても討論し、勉強になりました。

(3) 日本での生活

鳥取市に来て初めて一人暮らしをして自分で洗濯したり、買い物や料理をしたりと、良い経験でした。毎日 JR で大学へ行って、大学の食堂で昼食をとり、夕方家に帰って、料理を作り、残りの時間は日本語の勉強やのんびりしていました。日本のテレビ番組が大好きなので毎日バラエティーやお笑い番組など見ていました。分からなかった言葉とかギャグなどは友達に意味を教えてもらいました。

鳥取に来た当初から電気屋さんや家の近所の店にもよく行きました。道と左側通行にも慣れて、自転車で散歩にも行きました。

ポイントカードを作って、携帯電話も買い、鳥取での生活にも慣れましたが、店で買い物をする時にはいつも私がブラジルからの留学生だと伝えて簡単な日本語で説明してもらいました。

週末は家事をしたり、大学の友達と遊びに行ったり楽しく過ごしました。友達と集まる時はブラジルと日本についての色々な話をして両国の違いを知りました。会話はできましたが、難しい話、たとえば経済や政治などの話になると、言葉が全然分からず、もっと勉強しないといけないと思いました。大学で日本語クラスを受講し、日本人パートナーと話したり、日本の文化も学んだりでき、大変良かったと思います。授業を通して韓国、フランス、カナダの学生とも色々な話ができ、国際交流もありました。

5月には末広町内会から招待があり聖神社御幸大祭に2日間参加しました。山車を引っ張りながら町を歩きました。この祭りに参加したおかげで町内の皆さんと知り合えました。8月にはしゃんしゃん祭りに鳥取大学の留学生連として参加しました。大きな祭りに驚きました。

6月には北栄町で「すいか・長いもマラソン大会」に参加しました。前夜に徳岡さんの家にホームステイをさせてもらいお世話になりました。徳岡さんの家族とも知り合えてとても楽しいときを過ごすことができました。

鳥取の季節は夏と冬がブラジルと全然違うと思いました。夏は蒸し暑くて毎日4回ぐ

らいシャワーを浴び、夜はエアコンを使わずに扇風機を夜通しつけて寝ていました。冬は私の出身地よりずっと気温が低く全く違う寒さです、そして初めて雪を見ました。マンションのベランダから雪が降るのを見るのは楽しかったです。牡丹雪が一番好きな雪です。しかし、歩道に雪が溶けると水溜りや氷が張って滑りやすくなり、歩くのが大変でした。

鳥取の生活では、安心して安全に外を歩けることに特に感心しました。どんな時間でも一人でコンビニに行ったりスーパーで買い物したり、デジタルカメラやMP3プレイヤーなどを持って歩いたりできるというのはブラジルでは全然考えられないことです。帰国後はブラジルの毎日の生活や習慣にまた慣れるまでは大変だと思います。

(4) 国内旅行

夏休みが始まって九州から東北地方まで各地を旅行しました。様々な場所に行き日本の有名な観光名所を訪ねて、県民とも触れ合って日本の歴史や県民の習慣などを学びました。雑誌やインタ-ネットで見ていた場所に行き感動したくさん写真を撮りました。もちろん鳥取の観光名所にも行きました。鳥取砂丘、米子水木しげるロード、大山、そしてみるくの里でおいしいソフトクリームも食べました。

日本の鉄道網はとっても便利だと思いました。汽車、電車、地下鉄、新幹線など、鉄道網を使って全国どこにでも行けることに驚きました。夏休みにはJRの青春18きっぷを使って旅行しました。安いですが普通列車しか使えないので時間がかかりました。鳥取から熊本まで16時間かかりました、音楽を聞いたり、寝たりして時間をつぶしました。事前に時刻表を調べて移動しましたが、列車の乗り換えがぎりぎりですぐ昼食も夕食も食べられなかったりと、面白い経験でした。

(5) ブラジル日本移民100周年

2008年は特別な年でした。1908年6月18日に最初のブラジル移民船、笠戸丸がサンパウロ州サントス港に到着しました。神戸港を出航、52日間の航海の後、781名の農業契約移民と12名の自由移民がサントス港に到着しました。彼らは言語、風習、気候の全く違う国に住み着きブラジル日本移民の歴史が始まりました。

鳥取に来て鳥取県とブラジルは強く繋がっていると感じました。鳥取ブラジル友好協会と鳥取ブラジル会の事を知った時は驚きました。会でブラジルに興味がある人やブラジルに行ったことある人と知り合え、触れ合うことができ、楽しかったです。

鳥取市で行われた記念式典でスピーチをして、新聞の取材を受け、NHKの番組にも出

演しました。ブラジルの日系人会の人たちも母に番組を見たと話していたそうですが、嬉しく思うと同時にもっと頑張らないといけないという気持ちも湧いてきました。

私は記念式典のスピーチを、曾祖父母、祖父母と両親の苦勞した話を思い出しながら、またそれに感動しながら書きました。今こんな生活が出来るのは皆のおかげだと感謝しています。

(6) おわりに

この1年間はあっという間に過ぎました。色々な体験ができ、勉強もし、この短い間に沢山の思い出ができたのは鳥取県の皆様のおかげです。

鳥取県交流推進課と鳥取県国際交流財団の皆様、色々お世話になりました、生活と大学の面倒を見ていただきましてありがとうございました。鳥取県交流推進課の中本さんと池本さん、そして鳥取県国際交流財団の八木さんと古波藏さん、大変お世話になり、ありがとうございました。

鳥取大学機械工学科の早川先生、研究室に受け入れていただき、ありがとうございました。また、赤尾先生、音田先生、専門や日本の事などを色々教えてくださいましてありがとうございました。そして、研究室の皆様、仲良くしてくださり、色々サポートをしていただき、ありがとうございました。

鳥取・ブラジル友好協会、鳥取ブラジル会、末広町内会、出会えた鳥取県の皆様、お世話になりました、この一年間は忘れられない良い思い出となりました、ありがとうございました。

最後にこの貴重な機会をくださった鳥取県とブラジル鳥取県人会の皆様にご心より感謝申し上げます。



聖神社祭り(2008年5月)



研究室の皆さん（2008年6月）



由良でホームステイ。徳岡さん家族（2008年7月）



日本全国のブラジル留学生と富士山へ（2008年8月）

名 簿

海外技術研修員

年 度	国籍・出身地	氏 名	性別	研修内容	研修先
1988（昭和63）	ブラジル	中原 清治 パウロ	男	農地灌漑	鳥取大学農学部
1989（平成元）	ブラジル	伊藤 誠 パウロ	男	園芸（果実処理技術）	鳥取大学農学部
		山根 猛 セルジオ	男	コンピュータ・システム	鳥取大学工学部、鳥取県情報センター
1990（平成2）	ブラジル	伊藤 万里夫	男	歯科治療	県立中央病院
		河上 リジア ベロニカ	女	理学療法	皆生小児療育センター
1991（平成3）	ブラジル	西尾 リナ 佳代子	女	建設設計	米子工業高等専門学校
		菊留 恵 ルシア	女		
1992（平成4）	ブラジル	河上 ファビオ 竹一	男	システム工学	鳥取大学工学部
1993（平成5）	ブラジル	門脇 エジソン	男	農業分析化学	鳥取大学農学部
		加藤 モニカ みち子	女	グラフィック・デザイン	米子工業高等専門学校
1994（平成6）	ブラジル	細田 真一 エルシオ	男	果樹栽培	鳥取大学農学部
		米原 ルシアーナ	女	海水魚栽培	県水産試験場
1995（平成7）	ブラジル	加藤 ベロニカ あけみ	女	歯科治療	県立中央病院
		河上 マリシー	女	企業経営	鳥取ガス
	中国吉林省	林建華（リン ジェンホウ）	女	衛生行政	県医務薬事課
	モンゴル中央県	ダグワドルジ バトバヤル	男	地方行政	県市町村振興課
1996（平成8）	ブラジル	河井 美智恵 ルシアナ	女	臨床検査	県立中央病院
	中国吉林省	沈在成（チン ザイチェン）	男	商工行政	県商政課
1997（平成9）	ブラジル	西坂 マルリ れいか	女	会計事務	中尾税経事務所
		吉田 ますみ ルシー	女	歯科治療	県立中央病院
	中国吉林省	陳香林（チン シャンリン）	女	商工行政	県商政課
	モンゴル中央県	バヤルバト ボルドバートル	男	行政一般	県市町村振興課
1998（平成10）	ブラジル	中尾 ソランジェ	女	広告一般	デザインスタジオ石山
	中国吉林省	曹仁秋（ツァオ レンチュウ）	男	商工行政	県商政課
		杜 軍（ドゥ ジウン）	男	環境行政	県衛生研究所
	モンゴル中央県	バルガルスレン エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
ツェレンドルジ アリマントヤ		女			
1999（平成11）	ブラジル	岩水 ミリアン 恵美	女	食品加工	大伸水産
		高橋 クリスティーナ 理恵	女	広報・報道	新日本海新聞社
	中国吉林省	玉冬輝（ワン ドンフィ）	男	商工行政	県商政課

1999 (平成 11)	モンゴル中央県	トゥグスオチル バヤルフー	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及センター
		ソソルバラム ウラーンツェグ	女		
2000 (平成 12)	ブラジル	西森 由美香	女	歯科治療	県立中央病院
		山本 リア	女	土木	県管理課
	中国吉林省	崔成岩 (ツウイ チョンヤアン)	男	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	エレンダワー ガンボルド	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ナワンバルダン トゥムルツァ	女		
2001 (平成 13)	ブラジル	大原 高取 ビビアナ	女	宣伝・広告	鳥取県産業技術センター
	中国吉林省	呉英蘭 (ウ イェンラン)	女	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	チョイジャムツ バヤラー	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ソンドイ ウランチメグ	女		
2002 (平成 14)	ブラジル	エリカ サナエ カゲヤマ	女	建築	杵村建築設計事務所、米子工業 高等専門学校
	パラグアイ	谷口 まゆみ	女	情報技術	エコシステムクリエイター
	中国吉林省	許長春 (シウ チャンチュン)	男	環境	県衛生環境研究所
		郭大衛 (クオ ターウェイ)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	スレンホルロ ガンチメグ	女	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、八頭 農業改良普及所
		バトジャルガル ツォグトサラ ン	男		
	2003 (平成 15)	ブラジル	エリカ ナオミ カトウ	女	環境
ルシアナ ケラ			女	都市設計	県環境政策課、白兔設計事務 所、鳥取環境大学
中国吉林省		李守祥 (リ シュショウ)	男	環境	県環境政策課、衛生研究所
		朴 晟 (ピャオ シュン)	男	商工行政	県経済交流課
モンゴル中央県		ダシゼベグ チョルーンツェツ ェグ	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 大学農学部
2004 (平成 16)		ブラジル	ジナー サユリ イワミズ	女	建築設計
	モンゴル中央県	オンゴードイ ムンフトヤ	女	農業	農業大学校、園芸試験場
2005 (平成 17)	ブラジル	サンドラ アケミ ナリタ	女	報道	新日本海新聞社等
	モンゴル中央県	ウダバルバダム エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
2006 (平成 18)	ブラジル	エリキ フナバシ	男	食品流通	中井酒造株式会社、県市場開拓 監、県文化観光局
	モンゴル中央県	ゲンデンブレブ ガンバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
2007 (平成 19)	ブラジル	ミリアン ハルキ キノシタ	女	福祉保健	総合療育センター
	モンゴル中央県	バルジンニヤム バトソーリ	男	農業	農業大学校、園芸試験場

中国河北省技術研修生

年度	氏名	性別	研修内容	研修先
1992(平成4)	臧恩宝(ズアン エンバオ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
1993(平成5)	何利華(ホ リーホァ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
	王 軍(ワン ジュン)	男		

中国河北省農林漁業研究者

年度	氏名	所属	性別	研修内容	研修先
1988(昭和63)	殷録閣(イン ルーコウ)	水産研究所	男	栽培漁業	栽培漁業試験場
	何建平(ホー チンピン)	秦皇島市畜牧水産局	男		
1989(平成元)	閻乃庚(エン ダイコウ)	農林科学院	男	果樹栽培	果樹野菜試験場
	李光照(リ グァンジャオ)		男		
1990(平成2)	焦長明(チャオ チャンミン)	農林科学院	男	生物工学	果樹野菜試験場
1991(平成3)	程増書(チョン ソンシュ)	農林科学院	男	生物工学	果樹野菜試験場
	高延庁(ガオ イェンティン)	河北省林業局	男		
1992(平成4)	張麗潔(ジャン リジェ)	農林科学院	女	果樹栽培	園芸試験場
	崔 洋(ツイ ヤン)		男	生物工学	鳥取大学
1993(平成5)	吐永清(トゥ ヨンチン)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
	曾憲坤(ソン シエヌクウヌ)	永清県林業局	男	砂地果樹	
1994(平成6)	高志傑(ガオ ジジェ)	農林科学院	男	野菜栽培	園芸試験場
	張素芳(チャン スーファン)		女	土壤肥料	農業試験場
1995(平成7)	斉秀菊(チィ シウジュ)	農林科学院	女	野菜病害防除	園芸試験場
1996(平成8)	高林森(ガオ リヌセヌ)	農林科学院等	男	甘柿栽培	園芸試験場
	高延庁(ガオ イェンティン)		男	花き栽培	
	溢春秀(イ チュヌシウ)		女		
	及 華(ジィ ホァ)		女		
1997(平成9)	孫嵐国(スヌ ラヌグオ)	農林科学院	男	果樹栽培	園芸試験場
1998(平成10)	楊建波(ヤン ジェヌボ)	大名県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
1999(平成11)	姜玉生(ジャン ユイション)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
2000(平成12)	李克健(リ コウチン)	曲陽県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
	王明秋(ワン ミンシュウ)	農林科学院	男	野菜栽培	
2001(平成13)	馮樹亮(フォン シュリアン)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2002(平成14)	鄭 礼(チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2003(平成15)	鄭 礼(チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場

中国河北省農業研修生・緑化研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1987 (昭和 62)	団長	邱濟民 (テイ ジーミン)	男	果樹栽培	東伯郡関金町 山本守夫氏
	副団長	王国華 (ワン グォホァ)	男	野菜栽培	倉吉市 河本増雄氏
	団員	高延庁 (ガオ イエンティン)	男	果樹栽培	東伯郡東伯町 河本茂氏
		張風栄 (ジャン フォンロン)	男	花き栽培	気高郡鹿野町 今本徹氏
1987 (昭和 62)	団員	王迎濤 (ワン インタオ)	男	果樹栽培	倉吉市 田中秀人氏
1988 (昭和 63)	団長	張連仁 (ジャン リエンレン)	男	果樹栽培	倉吉市 福井光隆氏
	副団長	韓振延 (ハン ジェンイエン)	男		東伯郡関金町 山本守夫氏
	団員	王 強 (ワン チァン)	男		東伯郡赤碕町 石賀昭一氏
		彭進友 (ボン ジンイェウ)	男		倉吉市 松本俊一氏
1989 (平成元)	団長	邢永才 (ジン ヨンツァイ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡中山町 井上智光氏
	団員	梁義春 (リャン イーチュン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井利幸氏
		徐東端 (シュイ ドンドァン)	男	野菜栽培	農業大学校、倉吉市 上村富士雄氏
		蒋喜田 (ジャン シーチァン)	男		農業大学校、東伯郡大栄町 梅津良善氏
1990 (平成 2)	団長	王振一 (ワン ジェンイ)	男	果樹栽培	農業大学校、倉吉市 大野俊一氏
	団員	周延文 (ジョウ イァンウェン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡北条町 石川孝平氏
		劉福辰 (リュウ フウチェン)	男	畜産	農業大学校、東伯郡東伯町 川本正一郎氏
1991 (平成 3)	団長	楊大宇 (ヤン ダユイ)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木初巳氏
	団員	張少飛 (ジャン シャオフェイ)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
		高林森 (ガオ リンセン)	男	イチゴ	農業大学校、気高郡青谷町 田中正人氏
		呉鉄園 (ゴ ティエユァン)	男	果樹 (機械)	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
		席会民 (シィ ホォイミン)	男		農業大学校、八頭郡郡家町 小林洋吉氏
1992 (平成 4)	団長	高玉軍 (ガオ ユイジュン)	男	果樹栽培	農業大学校、米子市 前田貢氏
	団員	謝曉亮 (シェ シャオリアン)	男		農業大学校、西伯郡淀江町 綾木健一氏
		魏建国 (ウェイ ジェングォ)	男		農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		段丙武 (ダァン ピンウ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 岩井宰氏
		胡英輝 (フウ インホァイ)	男	野菜栽培	農業大学校、日野郡溝口町 遠藤達也氏
1993 (平成 5)	団長	白韶雪 (パイ シャオシュエ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 森田久好氏
	団員	丁振京 (ティン ジェンジン)	男		農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
		魏建秋 (ウェイ ジァンチウ)	男		農業大学校、東伯郡赤碕町 入江重吉氏
		李志強 (リ ジィチァン)	男		酪農
		李躍進 (リ ユェジン)	男	砂丘園芸	農業大学校、東伯郡北条町 栢田富裕氏

1994 (平成6)	団長	張曉義 (ジャン シアオイ)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
	団員	王 忠 (ワン ジョオン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
		陳 雪 (チェン シュエ)	男		農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明俊氏
		栄 新 (ルウオン シン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 山根徳之氏
		邵吉祥 (シャオ ジシアン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
1995 (平成7)	団長	孫風国 (ジュン クニクオ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡大山町 提嶋勇治氏
	団員	鮑紀剛 (バオ チークアン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井剛毅氏
		団員	張 威 (チャン ウィ)	男	野菜栽培
	趙志軍 (チャオ チージュン)		男	野菜栽培	農業大学校、米子市 福島康孝氏
	干海良 (ユ ハイリヤン)		男	畜産栽培	農業大学校、西伯郡名和町 谷永憲雄氏
1996 (平成8)	団長	馬建秋 (マー チェンチュウ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡閉金町 藤井一良氏
	団員	曹海峰 (ツァオ ファンフェン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 岩本典行氏
		楊金昭 (ヤン チンチャオ)	男		農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
		野菜栽培	崔増力 (ツウイ チェンリ)	男	農業大学校、東伯郡大栄町 山下正美氏
	馬国平 (マー クォピン)		男	農業大学校、東伯郡大栄町 森本真樹男氏	
1997 (平成9)	団長	劉 偉 (リュウ ウェ)	男	果樹栽培	農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
	団員	張孟傑 (ハン モンジェ)	男		農業大学校、八頭郡八東町 木原剛嗣氏
		祈建増 (チイ ジェンゾン)	男		野菜栽培
		姚聖軍 (ヤオ ションジユン)	男	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏	
		張加国 (ジャン ジアグオ)	男	甘柿	農業大学校、八頭郡都家町 野田稔氏
	李鉄山 (リ ティエシャン)	男			
1998 (平成10)	団長	張志安 (ジャン チアアン)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡淀江町 清水綾子氏
	団員	韓 偉 (ハン ウェイ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 米沢誠一氏
		封志平 (フウ チィピン)	男	甘柿	農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		丁雪京 (ディン シュエジン)	男	野菜栽培	農業大学校、境港市 渡部武治氏
		趙利波 (チャオ リーブウ)	男		農業大学校、西伯郡中山町 秋田実氏
		崔良龍 (ツイ リヤンロン)	男		農業大学校、日野郡日南町 池田尚弘氏
1999 (平成11)	団長	呉炳奇 (ウー ジュンウエン)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
	団員	高俊文 (カオ ジュンウエン)	男		農業大学校、東伯郡赤碕町 田中哲馬氏
		尼群周 (ニー チュンチョウ)	男	甘柿	農業大学校、東伯郡東郷町 福本巧氏
		武 斌 (ウー ピン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 梅津博文氏
		王海東 (ワン ハイドン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 小前二郎氏
		蔣丙文 (ジャン ピンウエン)	男		農業大学校、倉吉市 大野俊一氏

2000 (平成 12)	団長	魏建国 (ウェイ ジェンゲー)	男	果樹栽培	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
	団員	馬海国 (マ ハイゲー)	男		農業大学校、気高郡青谷町 長谷川義博氏
		楊端剛 (ヤン ルイガン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷廣太郎氏
		魯 明 (ルー ミン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡郡家町 毛利克征氏
2002 (平成 14)	団長	王春龍 (ワン チュンロン)	男	林業	鳥取県山林樹苗協同組合、林業試験場
	団員	肖 鋒 (シアウ フォン)	男		
		于小軍 (ウィ シアオジュン)	男		
		王鉄峰 (ワン ティエフォン)	男	畜産	鳥取県畜産振興協会鳥取放牧場河合谷分場、畜産試験場
龔志勇 (グワン チューン)	男				
2003 (平成 15)	団員	楊耀耀 (ヤン ヤオホイ)	男	林業	鳥取県森林組合連合会、鳥取森林管理署、鳥取県山林樹苗協同組合
		吳 濤 (ウー タオ)	男		
		柳全芬 (リュ チュワンフェン)	男	畜産	倉吉家畜保健衛生所、鳥取畜産農業協同組合、大山乳業農業共同組合
		高衆迎 (カオ チュンイン)	男		

中国黒竜江省農業研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1995 (平成 7)	団長	梁桂誠 (リヤン クイチョン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
	団員	牛明君 (ニウ ミンチュン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
		李光印 (リ コワンイン)	男	稲作・果樹	農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明敏氏

韓国江原道行政実務研修生

年 度	氏 名	性別	研修内容	研修先
1993 (平成 5)	崔炯奎 (チェ ヒョンギョ)	男	地方行政	県市町村振興課
1994 (平成 6)	金星鎬 (キム ソンホ)	男	地方行政	県市町村振興課
1995 (平成 7)	李昇燮 (イ スンソップ)	男	行政管理	県職員課
1996 (平成 8)	朴根泳 (パク グンニョン)	男	地方行政	県市町村振興課
1997 (平成 9)	鄭官容 (チョン グァンヨン)	男	行政一般	県環境政策課
1998 (平成 10)	李搦烈 (イ グンニョル)	男	文化行政	県教育委員会文化課
1999 (平成 11)	白昶錫 (ベク チャンソク)	男	行政一般	県市町村振興課
2000 (平成 12)	安鏞辰 (アン ヨンジン)	男	農業行政	県生産流通課
2001 (平成 13)	鄭丞弼 (チョン スンピル)	男	行政一般	県市町村振興課
2002 (平成 14)	金光善 (キム グァンソン)	男	農林行政	県農林水産部
2003 (平成 15)	盧希宣 (ノ ヒソン)	女	農林行政	県農林水産部
2004 (平成 16)	姜熙星 (カン ヒソン)	男	行政一般	県総務部

自治体職員協力交流研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1996 (平成 8)	ベトナム	グエン キム フォン	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ベトナム	レ バン クイ	男	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	韓国 (江原道)	金東旭 (キム ドンウク)	男	観光行政	県観光課
	マレーシア	モハット ノール ハシム	男	行政一般	県国際課
1999 (平成 11)	韓国 (江原道)	黄貞淑 (ファン ジョンスク)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王 霞 (ワン シャア)	女	環境	県衛生研究所
2000 (平成 12)	韓国 (江原道)	全珍杓 (チョン ジンピョ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	趙 青 (ジャオ チン)	女	環境	県衛生研究所
2001 (平成 13)	韓国 (江原道)	金美慶 (キム ミギョン)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王立群 (ワン リチュイン)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2002 (平成 14)	韓国 (江原道)	林泰虎 (イム テホ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王宏偉 (ワン ホンウェイ)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2003 (平成 15)	韓国 (江原道)	元鴻植 (ウォン ホンシク)	男	福祉行政	県福祉保健課
		南鎮宇 (ナム ジンウ)	男	環境行政	県生活環境部
2004 (平成 16)	韓国 (江原道)	姜炯希 (カン ギョンヒ)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	徐 波 (シュウ ボウ)	男	商工行政	県経済交流課
2005 (平成 17)	中国 (吉林省)	李艳苹 (リ イェンピン)	女	商工行政	県経済交流課
	中国 (河北省)	張 碩 (チャン シュオ)	男	環境行政	県環境政策課
2006 (平成 18)	中国 (吉林省)	衣 飛 (イ フェイ)	女	商工行政	県産業開発課
2007 (平成 19)	中国 (吉林省)	杜春紅 (ドウ チュンホン)	女	商工行政	県産業開発課

外務省長期青年招聘事業研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1995 (平成 7)	モンゴル	ヤンザン セレンゲ	女	商工行政	県商工振興課
1996 (平成 8)	ミャンマー	ミン イン セイン	女	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	ミャンマー	コ コ ナイン	男	商工行政	県商政課
1999 (平成 11)	ベトナム	グエン タイ ピン	男	文化振興	県文化振興課
	カンボジア	サーン ビルナー	男	商工行政	県商政課
2000 (平成 12)	ミャンマー	ナン キン ヌ	女	文化振興	県文化振興課

国際協力機構（JICA）自治体連携研修員

年度	国籍	氏名	性別	研修内容	研修先
1999（平成11）	モンゴル（中央県）	バルジンニヤム デルゲルツォグト	女	循環器科医療	県立中央病院
2000（平成12）	モンゴル（中央県）	イシ オユンチメグ	女	内科・産婦人科医療	県立中央病院
2001（平成13）	モンゴル（中央県）	ジンベー ビンバジャブ	女	脳神経外科・脳神経 内科医療	県立中央病院
2004（平成16）	モンゴル（中央県）	スヘー オユンツェツェグ	女	産婦人科医療	県立中央病院

ブラジル県費留学生

年度	氏名	出身市町村 (旧名)	性別	大学等	学部	専攻
1965（昭和40）	山添 勝子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	
1966（昭和41）	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1967（昭和42）	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1968（昭和43）	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
1969（昭和44）	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
	山添 美智子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	農村社会
1970（昭和45）	鈴木 陽子	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	建築
	伊木 信子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
1971（昭和46）	成田 敬	米子市	男	鳥取大学	教育学部	産業概論
	明穂 薫	琴浦町 (東伯町)	男	鳥取大学	工学部	地域計画
1973（昭和48）	加藤 ルイザ	北栄町	女	鳥取大学	教育学部	教育制度
	加藤 輝子 ネリー	(北条町)	女	鳥取大学	教育学部	障害児教育
1974（昭和49）	平 ネウザ	日野町	女	鳥取大学	教育学部	国際貿易
	松下 美智子 エレーナ	八頭町 (船岡町)	女	鳥取大学	教育学部	社会福祉
1975（昭和50）	徳尾 リリア 淑子	日南町	女	鳥取大学	医学部	労働医学
	加藤 早苗 アンナ	北栄町 (大栄町)	女	鳥取大学	教育学部	日本語
1976（昭和51）	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築

1977 (昭和 52)	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築
	渡部 輝子	境港市	女	鳥取大学	教育学部	日本文化・教育制度
1978 (昭和 53)	竹内 綾子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
	前原 一禮	米子市	男	鳥取大学	農学部	農業経営
1979 (昭和 54)	平木 育子	米子市	女	鳥取大学	医学部	小児科
	岩本 増典	三朝町	男	鳥取大学	医学部	婦人科
1980 (昭和 55)	高見 ロウルデス 早苗	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	細菌学
	菊留 暁美	三朝町	女	鳥取大学	教育学部	心理学
1981 (昭和 56)	伊藤 清美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	教育学部	栄養学
	山下 八重子	三朝町	女	鳥取大学	工学部	地域計画
1982 (昭和 57)	平木 悦子	米子市	女	鳥取大学	医学部	産婦人科
	孝美 アメリカ 美知江	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	電機計算機
1983 (昭和 58)	霜田 美夕起	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	医学部	難聴治療
	橋浦 富代	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	地理学、自然科学
1984 (昭和 59)	岩本 デニゼ	三朝町	女	鳥取大学	工学部	都市計画
	岩本 エリーゼ 明己		女	鳥取大学	医学部	歯科
1985 (昭和 60)	加藤 五月 デイジー	鳥取市	女	鳥取大学	教育学部	現代日本語基礎教授法
	桑田 クリスティーナ 愛子	若桜町	女	鳥取大学	医学部	ウイルス学
1986 (昭和 61)	関山 理香 ジュリエッタ	鳥取市	女	鳥取大学	医学部	内科学
	長田 デルザ	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	衛生産科婦人科学
1987 (昭和 62)	河崎 幸子 クレミルダ	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	コンピューター
	小村 真澄 マリーザ	伯耆町 (岸本町)	女	鳥取大学	工学部	コンピューター
1988 (昭和 63)	武田 さつき ジュリア	伯耆町 (溝口町)	女	鳥取大学	教育学部	デザイン
1989 (平成元)	川崎 ミチエ クリスティーナ	琴浦町 (東伯町)	女	鳥取大学	工学部	土木材料学
1990 (平成 2)	吉田 美幸 ミリアン	鳥取市 (福部村)	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	日本の建築技術等
1991 (平成 3)	本橋 敏江 クリスティーナ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	知能情報工学
1992 (平成 4)	清水 ラケル	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	保健体育学

1993 (平成 5)	羽島 月江	米子市	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	デザイン
1994 (平成 6)	淵田 クリスティーナ あゆみ	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	日本語
1995 (平成 7)	清水 デニーゼ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	地質水質学
1996 (平成 8)	西尾 エリーザ 真理	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	工学部	品質管理
1999 (平成 11)	細田 アダウベルト 英二	伯耆町 (溝口町)	男	鳥取大学	地域教育学部	情報処理
2000 (平成 12)	大橋 ルシア みちこ	智頭町	女	鳥取大学	農学部	水質浄化
2001 (平成 13)	井上 友子 マルガリータ	米子市	女	鳥取大学	農学部	農業経営
2003 (平成 15)	カリーナ メグミ ニシオ	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	農学部	食品衛生・畜産物 加工
2004 (平成 16)	ウゴ ヤマシロ	八頭町 (船岡町)	男	鳥取大学	医学部	内科学
2005 (平成 17)	スエナガ アユミ	八頭町 (郡家町)	女	鳥取環境大学	環境政策学科	環境政策
2006 (平成 18)	ルセリア ユミ イヌマル	境港市	女	鳥取大学	地域学部	幼児教育

2008年度(平成20年度)

鳥取県海外技術研修員等

研修報告書

2009年(平成21年)3月

発行 鳥取県文化観光局交流推進課

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220

電話0857-26-7030